

CSR 報告書
2014

私たちの CSR 活動
Corporate Social Responsibility



社会から愛され、信頼される企業を目指して

目次

はじめに

P1~P8

1. 目次
2. ご挨拶
3. 私たちの価値提供領域
4. リコーグループの事業に対する姿勢
5. 価値提供プロセスの概要

CSRの考え方

P9~P10

1. 企業行動のフレームワーク
2. リコーグループ CSR 憲章
3. リコーグループの CSR の目指す姿
4. CSR の対象分野と活動概要

誠実な企業活動

P11~P16

- コンプライアンス
 1. コンプライアンスの考え方
 2. リコーグループ行動規範
 3. コンプライアンス浸透活動
 4. 内部通報制度「ほっとライン」
 5. 安全運転の遵守
- 内部統制・リスクマネジメント
 1. 内部統制
 2. リスクマネジメント
- 情報セキュリティ
 1. リコーグループの目指す情報セキュリティ
 2. ISO/IEC27001 認証取得
 3. 情報セキュリティの運用

環境との調和

P17~P22

1. リコーグループ地球環境保全の考え方
2. リコーグループ環境綱領
3. ISO14001 認証取得
4. 省エネ・温暖化防止活動
5. 省資源化
6. 製品・部品回収とリサイクル
7. 生物多様性保全活動

人間尊重

P23~P28

1. 「元気のいい会社」を目指して
2. 積極的にチャレンジする仕組み
3. 社員のモチベーション向上と好事例の水平展開
4. ダイバーシティ推進
5. ワークライフ・マネジメント
6. 人材開発の仕組み

社会との調和

P29~P36

1. リコーグループの一員としての社会貢献
2. 次世代育成への取り組み
3. リコー製品による教育分野での貢献
4. お客様・パートナーにも広がる社会貢献の輪
5. 各地域の社会貢献活動
6. 東日本大震災復興支援活動

ご紹介

P37~P42

1. ViCreA
2. CIS のご紹介
3. リコージャパン主要事業所一覧

報告範囲

対象期間：2013年4月～2014年3月
 （一部2014年4月以降の活動も掲載しています）
 発行：2014年9月

「Clickable Paper® サービス」について

本誌はリコーが提供する新しいクラウドサービスである、「Clickable Paper® サービス」に対応しています。



スマートフォン、タブレット端末用アプリケーション「RICOH TAMAGO Clicker（無料）」をインストールし、本誌誌面に配置されているアイコン（上図）の誌面を撮影（クリック）すると、誌面にリンクされたインターネット上のサイトをご覧ください。

アプリケーションの詳細は、以下の URL をご覧ください。

www.ricoh.co.jp/software/tamago/clicker/



ご挨拶

当社は、2014年7月、リコージャパン、リコーテクノシステムズ、リコービジネスエキスパートの3社、およびリコーITソリューションズの一部が統合し、販売、サービス、業務、ソリューションの機能が一体となった「新生リコージャパン」として新たなスタートを切りました。

これまで各社が培ってきた専門性と全国に広がる強固な販売・サービス体制を融合し、グループの総合力を活かしたワンストップでのソリューション・サービスの提供を強化します。これにより、地域・市場に即した高品質でスピーディな対応を実現するとともに、基盤事業であるドキュメント領域の継続的な成長と、IT サービスやコミュニケーション、ワークプレイス、ビジネスプロセス領域などのソリューション・サービス事業強化による新たな顧客価値の創造に取り組みます。

私たちリコーグループは、事業活動を進めるうえで基礎となる理念・価値観として「リコーウェイ」を掲げています。お客様に対する使命として、「人と情報のかかわりの中で、世の中の役に立つ新しい価値を生み出し、提供しつづける」とともに、社会に対する使命として、「かけがえのない地球を守るとともに、持続可能な社会づくりに責任を果す」ことの重要性を強く認識し、取り組んでいます。私たちリコージャパンは、リコーグループ CSR 憲章の4つの重点分野を中心に社会貢献なども含めたさまざまな活動により、お客様や地域社会をはじめとするステークホルダーの皆さまから愛され、信頼される企業になることを目指しています。

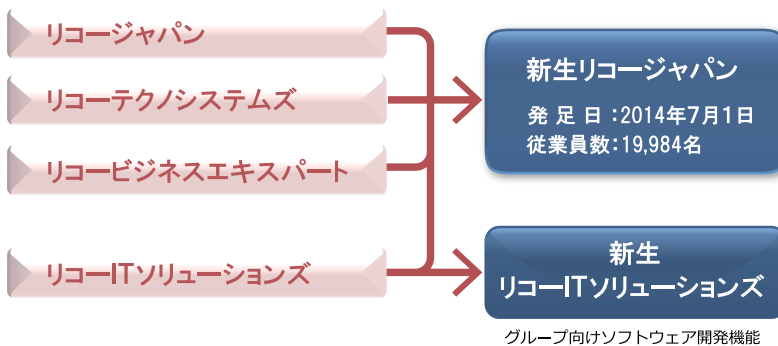
当報告書の発行を通じて、私たちが実践してきた CSR 活動をご紹介させていただき、ステークホルダーの皆さまからのご意見やアドバイスをいただくことで、さらなる活動の促進を図っていきたく思います。

リコージャパンは今後も、お客様とともに持続的に成長しつづけ、地域社会の発展に貢献する会社でありたいと考えています。



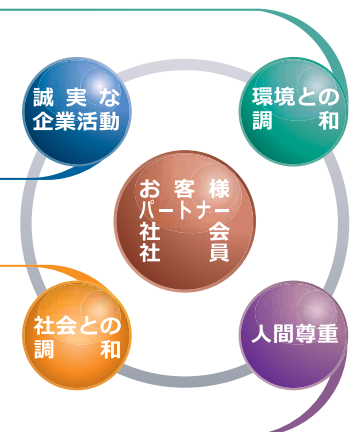
リコージャパン株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO
佐藤 邦彦

私たちは、ワンストップでのソリューション提供で、お客様の課題解決を支援します。



私たちは CSR 憲章の4つの重点分野で CSR 活動を実践し、社会から愛され信頼される企業を目指しています。

- 環境負荷低減・生物多様性保全
- 品質・安全・情報セキュリティ・信頼性の確保
- 環境への配慮、および使いやすさを追求した商品・サービスの提供
- 公正、透明、自由な競争と、各種団体との健全で正常な関係
- 社会貢献活動・社会とのコミュニケーション
- 国、地域の文化や習慣を尊重し、その発展に貢献する経営
- 安全で働きやすい職場環境
- 自主性と創造性を発揮できる豊かな個性の尊重
- 人権尊重と、社内における差別のない明るい職場づくり
- 強制労働・児童労働を認めず、人権侵害に加担しない



お客様の **企業価値** を向上し続けること。これが、私たちの使命です。



リコーグループは、日本、米州、欧州、アジア・パシフィック・中国の4極体制で、世界約200カ国で事業を展開しています。

日本極の販売統括会社であるリコー・ジャパンは、メーカーであるリコーや関連会社と連携し、お客様の経営課題の解決や企業価値向上にお役立ちできるソリューションをご提供しています。

私たちは新しい価値をお客様と共に創り上げ、お客様に安心・満足・感動していただける企業になることを目指しています。

2014年7月1日、新生「リコー・ジャパン」が発足しました。

リコー・ジャパンの社員は、一人ひとりがプロフェッショナル。 全社員がひとつとなって、お客様のために全力を尽くします。

お客様との対話を通じて本質的な課題を見出し、お客様と共有します。そして、自分たちの実践事例やお客様と共に取り組んだ改善・改革事例を通じて得たさまざまなノウハウとともに、お客様の課題を解決するソリューションを提案します。



高い技術力と専門性を持つ全国約4,000名の技術者によるオンサイト保守と、4つのセンターによる安心のサポート体制を整備。画像機器などのハードウェア保守はもちろん、ネットワークやシステムの運用保守までをワンストップで提供します。

お客様へのワンストップ体制での一翼を担い、常にお客様の立場を考えながら、高品質でスピーディな業務を遂行します。業務のエキスパートとして、お客様との約束を守り、日々の業務を通じて信頼関係の基盤づくりを行っています。



業界トップレベルのSE集団が、お客様個々のご要望に合わせたシステムインテグレーションを提供します。最適なソリューションの提供により、お客様の業務プロセスの効率化や、ワークスタイルの変革を支援します。



私たちは、ワンストップでのソリューション提供で、お客様の課題解決を支援します。

ワンストップソリューションで、お客様の **経営課題の解決** を支援します。

リコージャパンは充実した販売・サポート&サービス体制で、お客様ごとに適したソリューションを提供しています。お客様の環境やニーズの変化を捉え、強みであるドキュメント領域をベースに、IT サービスやコミュニケーション領域まで価値提供領域を広げ、お客様の課題解決に役立つ商品やサービスをワンストップで提供しています。

画像領域

MFP やプリンターをはじめとした、お客様の多様なニーズにお応えする製品ラインナップとともに、マネージド・ドキュメント・サービスなど、ドキュメントのエキスパートとして最適なソリューションをご提供します。



IT インフラ領域

画像製品のサービス、サポートで培ったノウハウや体制を活かし、お客様のビジネスに欠かすことのできない IT インフラの企画から構築、運用管理までをワンストップで提供し、お客様の円滑なビジネスをサポートします。



コミュニケーション領域

音声コミュニケーション環境の最適化はもちろん、テレビ会議システムやインタラクティブホワイトボードなどの製品・サービス、外出先でも活用できるモバイル環境など、ワンストップでご提供します。



ワークプレイス領域

ワークスタイル変革を実現するための戦略的なオフィスや、LED の活用による環境に配慮したオフィスなどを構築・運用するワンストップサービスをご提供し、企業価値の向上、競争力の強化に貢献します。



アプリケーション領域

お客様の業務プロセスを効率化するために、業種業務パッケージやグループウェア、各種クラウドサービスに加え、お客様個々のご要望に合わせたシステムインテグレーションをご提供します。



私たちの価値提供領域

プロダクションプリンティング領域

POD (プリントオンデマンド) ビジネスにおける最適なワークフローの構築支援や、基幹システムの印刷環境を一気通貫でサポートし、プリンティングに関する革新的なソリューションをご提供します。



ビジネスプロセス領域

リコーグループ各社の実践ノウハウをもとに、お客様の業務プロセスに関するコンサルティングやソリューションをご提供し、お客様のビジネスプロセスの変革を支援します。



はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

リコーグループの事業に対する姿勢

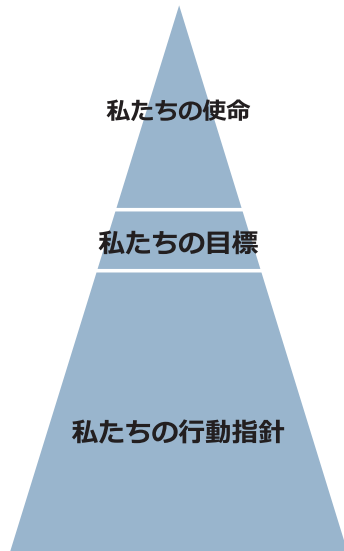
事業活動の基礎 ～リコーウェイ～

リコーウェイは、リコーグループ事業活動の基礎となる理念・価値観（創業の精神・経営理念）です。

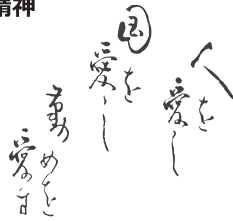
■ 創業の精神

事業活動の目的・
事業活動において
重視すべき価値観

■ 経営理念



● 三愛精神



【創業者 市村 清】

● 顧客に対する使命

人と情報のかかわりの中で、世の中の役に立つ
新しい価値を生み出し、提供し続ける

● 社会に対する使命

かけがえのない地球を守るとともに、持続可能な
社会づくりに責任を果たす

信頼と魅力の世界企業

● 自主創造

自ら行動し、自ら作り出す

● お役立ち精神

相手の立場に立って考え、行動する

● 人間主体の経営

会社の発展と個人の幸福の一致をはかる

● 地球・社会との共存

地球・社会の持続的発展に貢献する

お客様
社会

RICOH
Quality

リコー
バリュー

リコー
ウェイ

お客様起点の
モノづくり

RICOH Quality

RICOH Quality 宣言

『いつまでも安心・満足、使い続けて感動』

リコーグループは、いつの時代もお客様に信頼され、魅力ある企業グループであり続けたいと考えています。そのために、リコーグループは全ての製品・サービスの提供と価値共創のプロセスを通じて、お客様に、いつまでも安心・満足を感じていただくと共に、使い続けて感動していただく Quality を追求していきます。

リコーグループは、これまで以上にお客様に安心してご利用いただくと共に、期待されている以上の価値を感じていただくことが重要であると考えて RICOH Quality 宣言を発信し、共通の志のもとに、活動を展開しています。

RICOH Quality 向上への取り組み

● 基本品質を強化するための取り組み

- ①法規制遵守の徹底と、社内独自基準による「製品責任（安心・安全）」の追求継続
- ②多面的な「市場品質情報管理」、さらにグローバルでの品質情報管理の強化と、お客様の課題解決を行うソリューション品質保証プロセスの強化

● お客様感動を創出する取り組み

お客様の声を聴き、より深く理解して有用な価値を製品・サービスに織り込む活動

お客様
起点の
モノづくり

品質・
安全性
確保

はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

全ての事業活動は、「リコーウェイ」に基づいています。

RICOH Quality の位置づけ

リコーブランドに対する信頼
- お客様の生み出す価値の増大への貢献 -

『いつまでも安心・満足、使い続けて感動』



<経営理念>

私たちの使命 / 私たちの目標 / 私たちの行動指針

<創業の精神>

三愛精神（人を愛し、国を愛し、勤めを愛す）

RICOH Quality を実現する価値提供プロセス

私たちは、リコーウェイに基づき、製品・サービス、その提供プロセス、価値共創プロセスを通じて、リコーバリューを提供することで、お客様価値の創造や増大に貢献し、お客様に「いつまでも安心・満足、使い続けて感動」していただくことを目指していきます。

お客様起点の
モノづくり

最適なソリューションを提案
する販売体制

導入後の安心・
満足をお届けする
サポート＆サービス

RICOH Quality を実現する価値提供プロセス（詳細）

最適なソリューションを提案する販売体制

導入後の安心・満足をお届けするサポート＆サービス



リサイクル

ニーズ
把握

提案

納品

稼 動

廃棄

お客様が抱える
課題の明確化

最適ソリュー
ションの提案

- 日常の営業活動
 - ・情報セキュリティ提案
 - ・コスト削減提案
 - ・業務処理の効率化提案
 - ・利便性提案 etc.
- LiveOffice「ViCreA」や CIS※活動での社内実践事例紹介

稼動時の日常活動

- 営業
- サービス
- 物流

営業
フォロー

メンテ
ナンス

消耗品
供給

お客様状況の把握

お客様が抱えていた課題の解決状況

提供したサービス・サポート等満足度

機器・システムの稼動品質状況

サポート＆サービス体制
On-site / Center

- サービスステーション
- リコーテクニカルコールセンター
- IT コンタクトセンター
- モニタリング&コントロールセンター
- データセンター

お客様相談センター

RICOH Quality を具現化する、改善活動に反映

※CIS : Customer Innovation Support service

はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

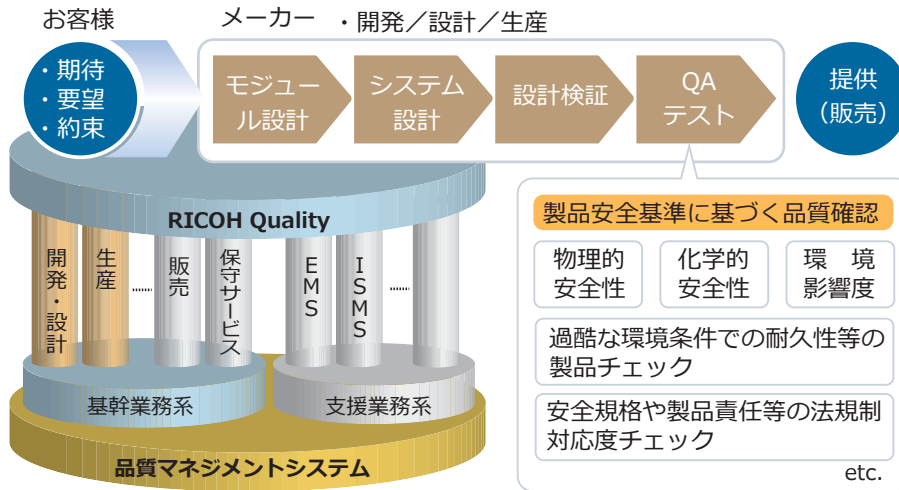
人間尊重

社会との調和

ご紹介

お客様起点のモノづくり

品質・安全性の確保



地球にやさしい商品

- 「地球にやさしい」商品づくりをしています。

バイオマス資源を主成分としたトナー

石油資源の枯渇抑制、カーボンニュートラルによるCO₂の排出量削減を可能にした、環境負荷を低減するバイオ技術を採用。

バイオプラスチック技術材料を採用

再生可能な生物由来のバイオマス資源を利用したプラスチックです。代表例は、デンプンを発酵させた乳酸を化学合成した「ポリ乳酸」ですが、これは焼却しても、排出されるCO₂は植物が成長する際に光合成で吸収したもので、大気中のCO₂を増加させません。

※バイオマスとは、化石資源を除く、再生可能な生物由来の有機性資源です。

- CO₂「見える化」

プロダクションプリンターで印刷したカタログに関して、原料調達から製造・販売・使用・廃棄までのライフサイクル全体で排出されるCO₂排出量（換算値）を表示しています。

※右のカタログのCFP(カーボンフットプリント)は、「200g」です。



人にやさしい商品

デジタル複合機をはじめとした商品やサービスは、世界中の国々で、健常者、障がい者、年齢にかかわらず、より多くの方々に使いやすさと利便さを感じていただく、「人にやさしい商品であること」をコンセプトにして商品を開発しています。そういう工夫の数々が私たちの提供する価値の一つです。



片手で軽く引き出せる「つまみ付き」トナーボトル



上下どちらからでもつかめるトレイで、かがむ必要なし



誰にでも見やすい色使いやLEDの点灯方法

最適なソリューション

販売体制

リコー・ジャパンは、お客様の課題解決し、最適なソリューションを提供拠点網を活かし、地域密着型のワン

ViCreA (ヴィクレア)

ViCreA (Value innovation Creative)のワークスタイル変革へのチャレにご体感いただく空間「LiveOffice」では、「社内実践事例」のご紹介を通の価値創造へのお役立ちをさせていた実践した内容だからこそ、成功事例こと、失敗談も含めた生のノウハウを持ってご提供することができると考え

※ViCreAは、'14年9月現在、全国40拠点で

CIS活動

CIS (Customer Innovation Support) リコーグループのノウハウをもとにした営課題を共に解決するサービスです。私たちは、他社での導入事例等の「ノウ加えて、自社で「実践」した“変革共に経営課題を解決できる価値提供リコー」になることを目指しています。

Value Presentation

Value Presentation では、各地区で取り組んだ社内実践ノウハウのごと共に実現した数多くの課題解決事例展示会でご紹介しています。

1. 経営課題を解決した、改革実践者革のヒントとなる事例やノウハウ
2. リコーグループが自ら実践してきたトレンドに対応したICTの活用事例
3. リコー最新ソリューション・新製品

NetRICOH

NetRICOH とはオンラインショップは機器の活用サポートや、業務効率化合インターネットサービスです。「お客と「担当営業」のダブルサポートで、できないこまやかな One to One サービス

お客様起点で商品・サポート & サービスを提供します。

を提案する販売体制

決を支援するために、グループ各社が連なっています。また、日本国内を網羅するストップ対応を実現いたします。



コミュニケーションスペース



ユニバーサルレイアウト



セミナー風景



工場見学



RICOH



お客様相談センター

Area) は、私たちを、お客様です。ViCreAして、お客様ができます。自らはもちろんのお客様に自信をています。

展開しています。

service) は、て、お客様の経

ハウ」の提供にの道”を示し、により、「頼れる

リコーグループ提供と、お客様を、セミナーや

による経営改

たこと、また

で実現できる姿

もとより、リコー提案を含めた総様専用ページ」リコーにしかスを提供して

オンラインショッピング
OA消耗品などのオフィス用品を豊富な品ぞろえと低価格でご提供

R・サービスプラス

リコー機器をさらに快適に使えるオンラインのサービス&サポート

ビジネス支援サービス

インターネットを活用して経営や業務の効率化をサポート

導入後の安心・満足をお届けするサポート & サービス

サポート&サービス体制

全国津々浦々まで広くカバーする 386 のサービスステーションから「オンサイトサービス」をはじめ、「ヘルプデスク」「@Remote」などの各種センターサービスで、お客様が導入されたリコー商品 & 各社商品、システムを、トータルでサポートします。

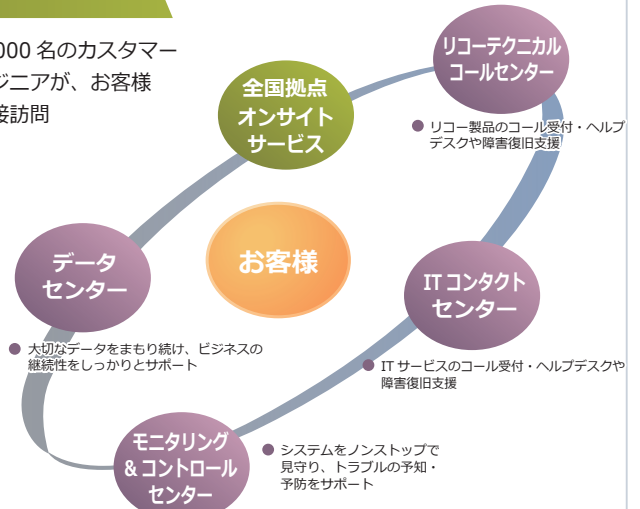
オンサイトサービス



約 4,000 名のカスタマーエンジニアが、お客様を直接訪問

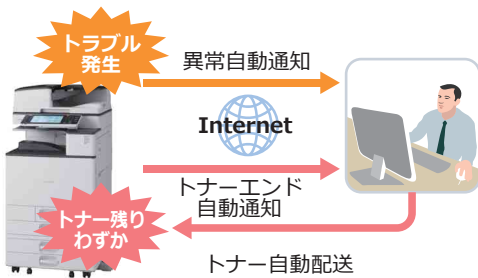
センターサービス

お客様のシステム運用管理やサポートを実施



遠隔サービス@Remote

インターネットを使いお客様の出力機器を常時監視することで、機器のトラブルを未然に防止し、お客様のビジネスへの影響を最小に抑えるサービスです。



サービス内容

- ①遠隔診断保守サービス
 - ・リモート診断による適切な保守
- ②カウンター自動検針
 - ・機器を止めることなくカウンター検針
- ③トナー自動配送サービス
 - ・トナー残量の自動検知と発注
- ④ご使用状況サポート
 - ・使用状況の詳細データに基づく効率化、消費電力、CO₂の削減

お客様相談センター

「お客様相談センター」では、リコー製品の操作やトラブルに関するお問い合わせ、製品や販売、サービスに関するご意見・ご要望、また購入前のご相談等を受け付けております。多様化していくお客様からの問い合わせに迅速、的確にお応えできるよう、体制・システム・教育などの改善に取り組んでいます。



また、お客様から寄せられた声は、製品改善への反映、およびお客様への提案活動につなげることを目指しています。



はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

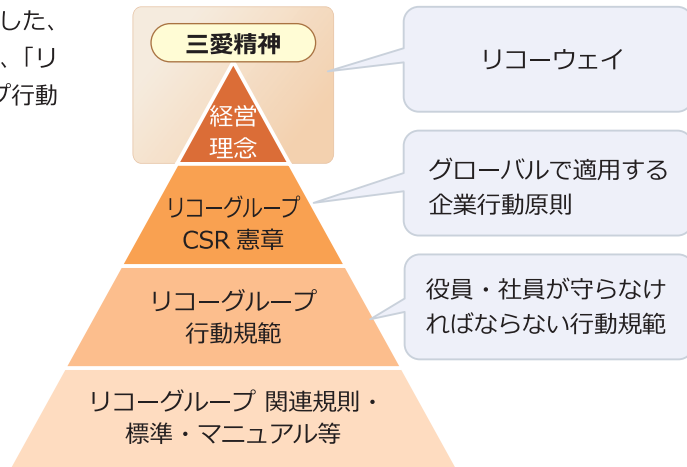
社会との調和

ご紹介

リコーグループ CSR の考え方

企業行動のフレームワーク

私たちの CSR 活動は、リコーウェイを理念とした、グループ・グローバル共有の行動原則である、「リコーグループ CSR 憲章」と、「リコーグループ行動規範」がベースとなっています。



リコーグループ CSR 憲章

リコーグループは社会から成長・発展を望まれる企業となり、経営のあらゆる側面からグローバルな視点で、「企業の社会に対する責任（CSR）」を果たすために、以下の原則に基づいて、各国の法令、国際ルールおよびその精神を理解し遵守するとともに、社会的良識をもって行動します。

誠実な企業活動

1. リコーグループの各企業は、品質・安全・情報セキュリティ・信頼性を確保し、環境への配慮および使いやすさを追求した、世の中に有用な商品・サービスを、開発し提供する。
2. リコーグループの各企業は、公正、透明、自由な競争を行うとともに、政治、行政、市民、及び団体とは、健全かつ正常な関係を維持する。
3. リコーグループの各企業は、自社の情報およびお客様の情報の適正な管理と保護を徹底する。

環境との調和

4. リコーグループの各企業は、環境保全を地球市民としての責務として受け止め、自主的、かつ積極的に取り組む。
5. リコーグループの各企業は、環境に配慮した技術革新の推進と、環境保全の継続的な活動に全員参加で取り組む。

人間尊重

6. リコーグループの各企業は、リコーグループの企業活動に関わるすべての人々の、安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、すべての社員の、自主性と創造性の発揮できる豊かな個性を尊重する。
7. リコーグループの各企業は、関係するすべての人々の人権を尊重し、また社内における差別のない明るい職場づくりを目指す。
8. リコーグループの各企業は、強制労働・児童労働を認めず、人権侵害に加担しない。

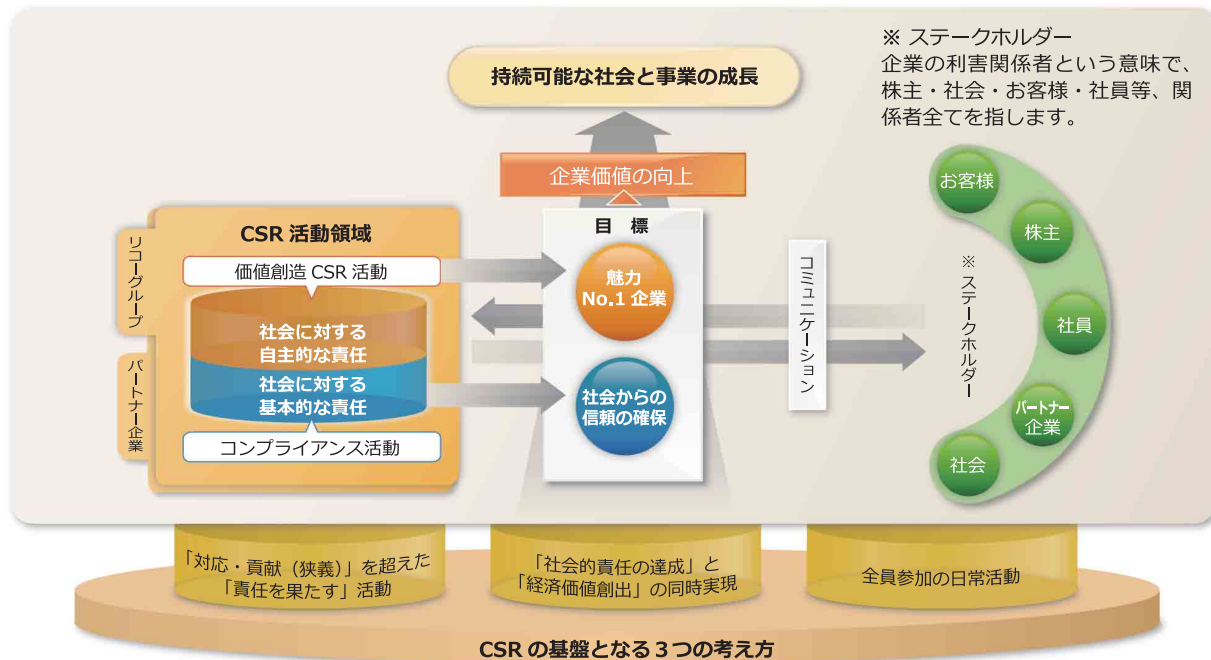
社会との調和

9. リコーグループの各企業は、「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
10. リコーグループの各企業は、国または地域の文化や習慣を尊重し、その発展に貢献する経営を行う。
11. リコーグループの各企業は、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的、かつ適切・公正に開示する。

地球・社会の持続的な発展と自社の成長を目指し、社会的責任経営を実践しています。

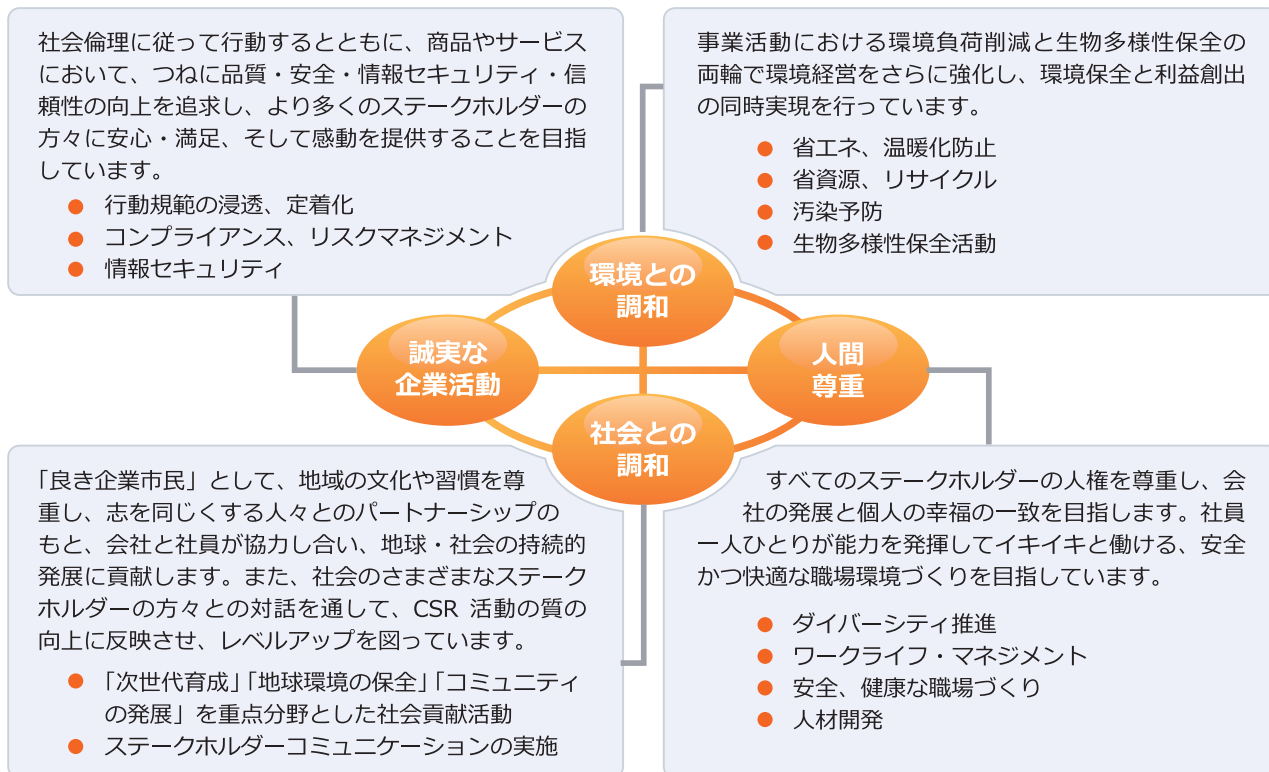
リコーグループのCSRの目指す姿

リコーグループは、「社会から愛され、成長・発展を望まれる企業」を目指してCSR活動を展開しています。その活動領域は、CSR憲章の4分野における「社会に対する基本的な責任」と「社会に対する自主的な責任」の2つの領域で、それぞれ、コンプライアンス活動と価値創造CSR活動と呼んで展開しています。



CSRの対象分野と活動概要

リコーグループでは、CSRの活動領域を「コンプライアンス活動」と、「価値創造CSR活動」の2つの領域に分け、その両輪を回すことで企業と社会の持続的な発展を目指しています。また、CSR憲章に則り、4つの重点分野を中心に、さまざまな活動に取り組んでいます。



はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

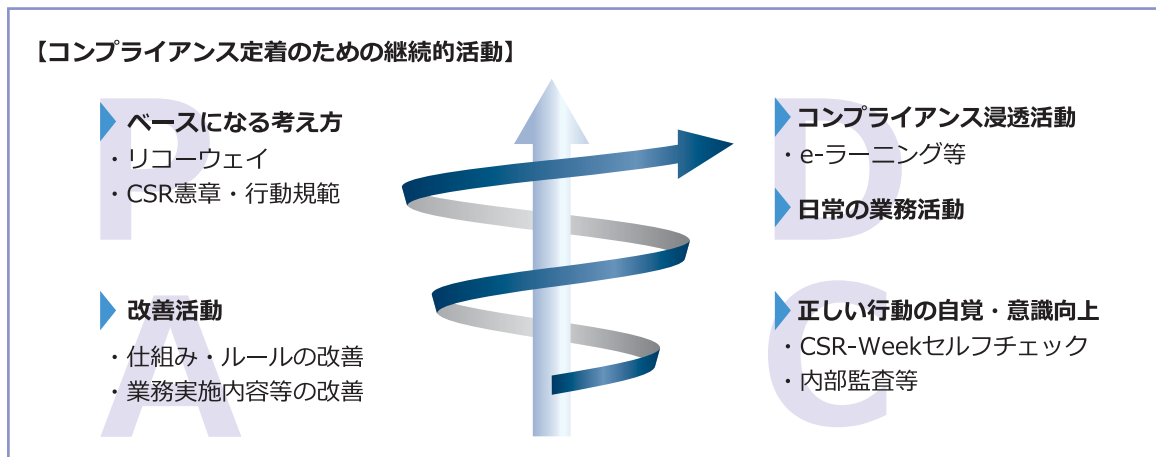
ご紹介

コンプライアンスの考え方

リコージャパンでは、コンプライアンスを法令を守るだけでなく、社会の構成員としての企業人、社会人として求められる倫理観・道徳観に根ざした良識ある行動を実践することを含めた活動と考え、推進しています。

企業は利益を追求した活動を行うことを目的のひとつとしていますが、法令に反する行為や、社会的に受け入れられない行為によって利益を得ることは、社会の一員として決して許されることではありません。

私たちは永年かけて築いた「信用」を、いつまでも守り続け、高い倫理観を保持していくためにコンプライアンス活動を展開しています。グループ共通の行動規範を定め、コンプライアンスの浸透や、社員意識向上の継続的な活動を実施し、日常の業務活動に定着する風土づくりに取り組んでいます。



リコーグループ行動規範

リコーグループが企業活動を展開していくにあたって、法令を遵守し、社会倫理に従って行動するということはもとより、社会との調和・共存という観点から、リコーグループの役員、および全ての社員が心がけ行動する規範となるのが「リコーグループ行動規範」です。この行動規範をコンプライアンス活動の中核として信頼される企業を目指し、コンプライアンス確立のため様々な取り組みを実施しています。

【行動規範は次の内容で構成されています】

誠実な企業活動

- ① お客様の立場に立った商品・サービスの提供
- ② 自由な競争および公正な取引
- ③ インサイダー取引の禁止
- ④ 企業秘密の管理
- ⑤ 接待、贈答などの制限
- ⑥ 公的機関との取引および政治献金の取り扱い
- ⑦ 適正な輸出入管理
- ⑧ 知的財産の保護と活用
- ⑨ 反社会的行為への関与の禁止
- ⑩ 会社の利益と対立するような個人の行為の禁止
- ⑪ 会社資産の保護

環境との調和

- ⑫ 地球環境の尊重

人間尊重

- ⑬ 基本的人権の尊重

社会との調和

- ⑭ 社会貢献活動の実践
- ⑮ 社会との相互理解



【行動規範 携帯版】

「リコーグループ行動規範」をいつでも確認できるように、携帯版や、グループウェアの電子掲示板を用意しています。さらに年1回、e-ラーニングを用いて、リコーグループ行動規範の振り返りを行い、改めて役員、および全社員が「誓約書」に署名して、代表者に提出しています。

高い倫理観を持った誇りある企業を目指し、地道な行動規範浸透活動を展開しています。

コンプライアンス浸透活動

CSR-Week セルフチェック

CSR-Week セルフチェックは、全社員が毎月1回月初に行うセルフチェック活動です。社会的問題になっている飲酒運転やモラル欠如問題に加え、お客様相談室に寄せられた声や、社内での問題を題材に、自分自身の言動を振り返り、正しい行動を自覚する取り組みです。

- 目的：・企業倫理を含むCSRの継続研鑽を通じて、経営品質の向上に資する。
 ・社会の一員として、法令・ルール・マナーを遵守できる人材育成と組織風土を醸成する。
- 実践：・役員・従業員・派遣社員も含め、全社員が毎月初にセルフチェックを実施。
 ・正しい理解と行動実践をするために組織マネジメントを実施。



セルフチェック用グループウェアのアイコン

【コンプライアンス】についてセルフチェックをお願いします。

リコーグループでは『コンプライアンス』を、法令だけでなく、社会的な良識や社内ルールに従って適切に行動することを含めて、『コンプライアンス』と呼びます。つまり、一般的な意味より広い考え方を指しています。日本OSでは以下の基本行動規範を定め、従業員の遵守・実践を求めています。

1. 法令、会社の規則、業務ルールに反する行為は行いません。
2. 談合等、取引や入札の公正を害する行為は行いません。
3. 他人の著作物の違法な複製、改変行為等を行いません。
8. 取引先に対して、倫理に反する言動は行いません。

○ [A] 行動規範をよく理解しており、今後も遵守・実践をしていきたい。
 ○ [B] 行動規範があるのは知っているが、今後も項目全てを遵守・実践するつもりはない。

- 【セルフチェック内容】**
- ・法令遵守
 - ・リコーグループ行動規範
 - ・情報セキュリティ
 - ・環境保全
 - ・社内ルール・マナー等
(毎月15問程度)

コンプライアンス教育

行動規範やコンプライアンスについて、それぞれの立場に応じたさまざまなコンプライアンス教育を実施して意識の向上を図っています。インターネットからでもアクセスできる利便性の高い環境を準備し、映像や音声を取り入れた学習効果の高いコンテンツが提供され、全社員が自分のスケジュールに合わせて学習しています。

1 コンプライアンス教育プログラム

- 社会的責任の重要性
- リコーグループ行動規範
- 行動規範に反する代表的な行為
- 基本的人権の尊重
- コンプライアンスマネジメント



e-ラーニングは、大きく分けると全社員受講必須と選択制の2つのプログラムを準備しています。必須のものは、期限までに対象者が受講を完了するよう、受講状況が確認できる教育推進者用メニューを活用しています。

2 「行動規範教育」のe-ラーニング画面紹介

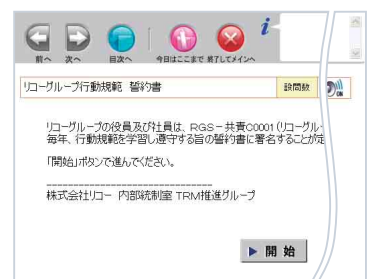
1.e-ラーニングスタート画面



2.本編学習中

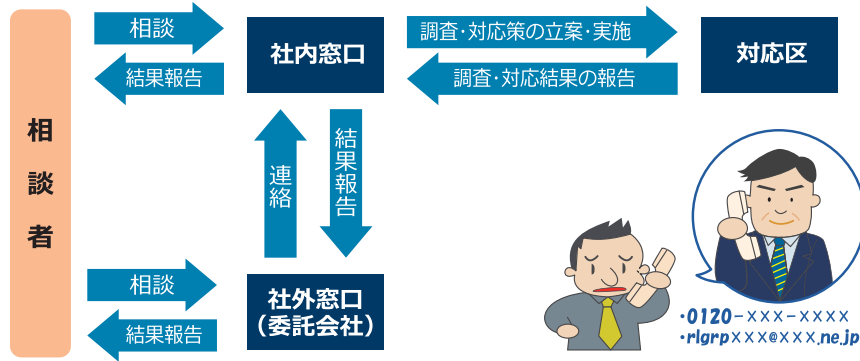


3.最後に行動規範遵守を誓約



内部通報制度「ほっとライン」

リコージャパンでは、自社専用の「ほっとライン」を開設し、コンプライアンスや行動規範に関する社員からの相談・通報ができる仕組みを構築しています。この仕組みにより、リコーグループ行動規範に違反する、または違反するおそれのある行為が行われていることを知ったときの通報と、ルール・仕組みに関する相談・提案を受け、コンプライアンスの取り組みを強化しています。



【「ほっとライン」の基本運営フロー】

安全運転の遵守

リコージャパンでは、全国で約 8,700 台の社有車で営業・サービス活動を行っています。安全運転の基本は、運転者全員が道路交通法を理解し、交通ルール・交通マナーを遵守することです。交通違反はもとより、乱暴な運転やマナー違反は、会社の信用を失墜させるということを肝に銘じ、「安全運転」の遵守に取り組んでいます。私たちは、「4つの視点(安全・社会性・運転者教育・ローコスト)」で「安全運転教育」「事故再発防止講習会」「全社展開のマネジメント」等、多岐にわたる安全運転遵守活動を展開しています。

1. Safety

安全

社員の安全確保
「過失事故ゼロ」への挑戦

Policy

“4ゼロ”への挑戦

人身事故ゼロ
有過失事故ゼロ
道交法違反ゼロ
マナークレームゼロ

Safety First!!
マナーアップ宣言車

理光 太郎

2. Social

社会市民の義務

道路交通法厳守
エコドライブの推進

4つの視点

3. Education

教育

事故者講習会
警察署講習会

警察の方をお招きして、
安全運転講習を実施しています。

ドライブレコーダー導入

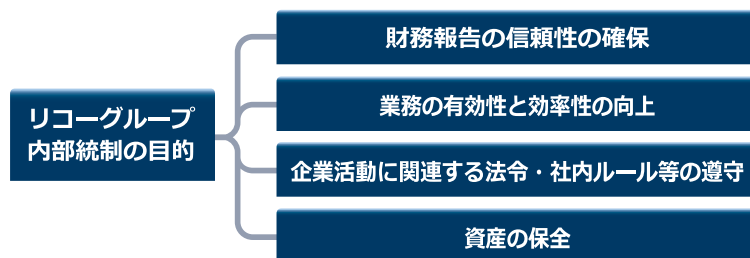
4. Low Cost

経費削減

人身事故ゼロへの挑戦
任意保険優良割引率

内部統制

リコーグループは、「リコーウェイ」に込められた価値観に立脚して、企業倫理と遵法の精神に基づき、経営の透明性を確保しつつ、競争力の強化を目指した内部統制システムを整備・運用し、その継続的な改善に努めています。活動の指針として「リコーグループ経営管理基本原則」を制定し、その中の「内部統制原則」に沿って活動を展開しています。リコーグループとして遵守すべき共通の規則については、グループ標準「リコーグループスタンダード (RGS)」として制定し、グループ全体で遵守するよう推進しています。また、国内販売グループ特有の活動についての遵守事項は、「国内販売グループスタンダード」として制定し、遵守するよう推進しています。さらに財務報告の信頼性の確保、業務の有効性と効率性の向上、企業活動に関連する法令・社内ルール等の遵守の確認などを目的として内部監査を実施しています。



リスクマネジメント

リコージャパンとして、「リコーグループ経営管理基本原則」に定めた「リスクマネジメント原則」に基づきリスク主管区を設定し、リスク管理を徹底しています。

主なリスク

企業活動に重大な悪影響を及ぼす事件・事故の未然防止および万一、事件・事故が発生した場合においては、被害の極小化と速やかな回復を図るため、下記のようなリスクに加えて販売会社特有のリスクに関する重要情報に対して経営層に報告し、共有しています。



インシデント発生時の対応

インシデント発生時に迅速かつ的確に対応できるように、インシデントごとの「報告レベル（インシデントの緊急度）」と「インシデントレベル（重要度）」をもとにした、エスカレーション（情報伝達）ルールと初動体制招集ルールを定めています。また、その実効性を高めるための緊急連絡網を作成し、徹底を図っています。

インシデント発生時は、発生主管区より対応主管区を通じて TRM※担当役員に一報。TRM 担当役員は、「緊急度」および「重要度」を判定し、最高経営責任者へ報告する仕組みとしています。また対応主管区は、「緊急度」および「重要度」に応じた“初動招集メンバー”を速やかに招集し、対策本部の設置による対応体制を取っています。

【インシデント発生時の報告ルート】



※TRM= トータル・リスク・マネジメント

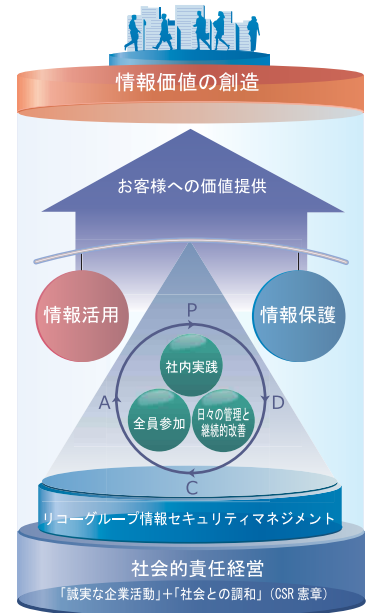
リコーグループの目指す情報セキュリティ

情報分野を事業領域とするリコーグループにとって、情報セキュリティは不可欠の要素と認識しています。そのため、情報セキュリティへの取り組みを全員参加の活動と位置づけ、現場・第一線での日々の管理と継続的改善を進めるとともに、それらを基盤としてお客様への価値提供を目指した、自社製品・サービスの積極的な社内活用を実践しています。こうした情報セキュリティ活動は、リコーグループ CSR 憲章にある「誠実な企業活動」と「社会との調和」の実践を目指すものです。

活動のベースとなる3つの考え方

- | | |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 全 員 参 加 | 役員から一般社員はもとより、協力会社など、パートナーの方々を含む全従業員で取り組む。 |
| ② 日々の管理と継続的改善 | 各層のマネジメントレベルで PDCA サイクルを回して、継続的改善に取り組む。 |
| ③ 社 内 実 践 | 自社の情報セキュリティ商品・ソリューションを、自らの情報セキュリティレベル向上に役立てながら、その有用性を確認し、上手な使い方のノウハウ蓄積や製品・サービスの改良に取り組む。 |

セキュアな社会の実現



ISO/IEC27001 認証取得

リコーグループは、2004年12月に「BS7799:PART2:2002」「ISMS 認証基準 Ver.2.0」の統一認証を同時取得いたしました。2007年3月に「ISO/IEC 27001」に移行登録を完了し、2007年12月、2010年12月、2013年12月に更新審査（3年ごと）を受け認証を継続しています。

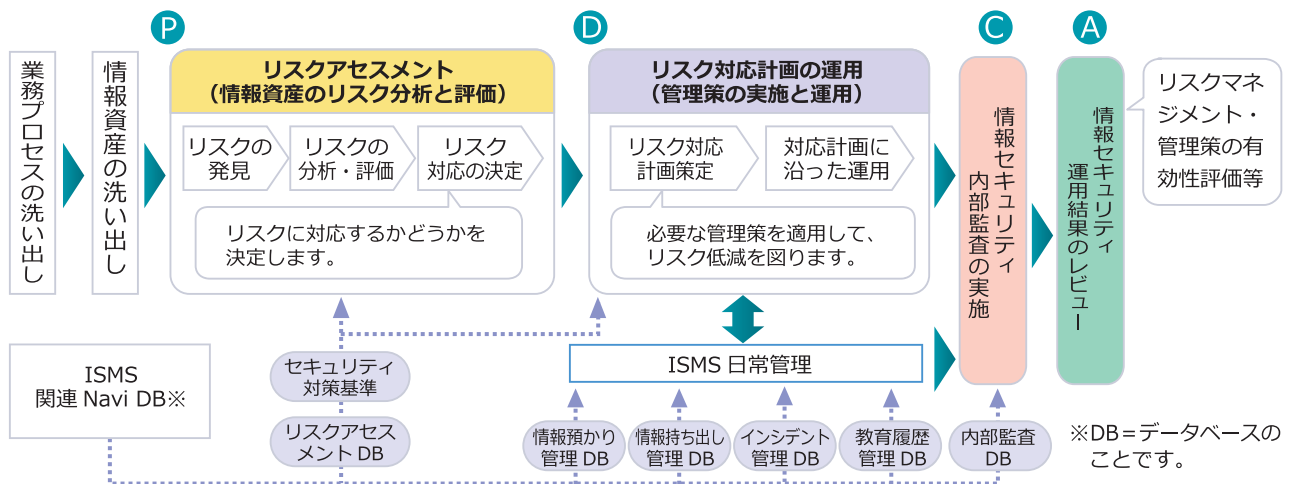


IS 85241 / ISO(JIS Q)27001
【ISO27001 認証ロゴマーク】

情報セキュリティの運用

ISMSの運用イメージ

情報セキュリティの基本方針に則って、ISMSの運用プロセスを確立しています。全体の運用イメージは下図の通りです。これらの運用は年間サイクルで PDCA を回しており、そのほとんどで ISMS 関連 DB※を活用しています。



はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

情報セキュリティへの取り組みを全員参加で実践しています。

■ 情報セキュリティ教育

情報セキュリティ対策では、社員一人ひとりが情報活用にとまなうリスクを認識して、自分の仕事を改善していく必要があります。そこで「情報セキュリティ教育」に力を入れ、全社員の意識とスキルを高めています。



【情報セキュリティ e-ラーニング】



【ISMS ハンドブック】

■ 内部監査とマネジメントレビューの実施

内部監査は ISMS の適合性や有効性を確認するため、定期的を実施しています。リスクアセスメント結果や、教育、日常ルールなど、セキュリティにおける強み・弱みを明確にし、監査結果に対して是正・改善することで、リスク低減とセキュリティレベルの向上を図っています。

当社の内部監査は ISMS の専門教育を受けた監査員が被監査組織と同じ目線に立ち、共に考え、新たな「気づき」を発見・共有する場となるようにしています。1年間の ISMS 活動における重要な情報は、マネジメントレビューとして経営陣に報告します。また、トップからの ISMS 方針を受け、翌年度の施策を展開しています。

目的 = ISMSの適合性・有効性確認



「気づき」の監査による効果

- ・潜在的リスクの炙り出し
- ・新たなセキュリティホールを発見
- ・業績向上に対する寄与

■ 情報セキュリティ管理策の実践事例

事件・事故（インシデント）により損害が発生することを防ぐため、さまざまな管理策を策定・実施しています。日常業務での、身近な管理策の事例をご紹介します。

1 お客様情報預かりルール

- ・お客様情報はお預かりしないことを前提としていますが、業務上やむを得ずお預かりするときは、下のフローで運用しています。



【情報預かりの運用フロー】

2 メール送信のとき

- ・誤送信防止のため、メールアドレスは個人アドレス帳に登録して使用する。
- ・送信前に宛先確認の習慣をつける。
- ・重要な添付ファイルはパスワードでロックする。
- ・面識のない人を宛先に含む一斉同報メールは、同報メール専用のシステムを使用する。

3 情報資産の持ち出し

- ・パソコンや USB メモリなどの情報端末を社外に持ち出す場合は、事前に持ち出し申請して確認を受けています。



管理策は・・・

- ・ウイルスチェック
- ・BIOS、HDD パスワード
- ・媒体は体から離さない。
- ・重要ファイルチェッカー

情報持ち出し内容を
トレースするツールです

4 iPadの利用ルール

- ・不要な企業秘密のデータを保存しない。
 - ・移動中は体から離さない。
 - ・電車の網棚や足元等に置かない。
 - ・車の中に放置しない。
 - ・飲酒予定のある際は、一旦事務所に持ち帰るなどして、携行しない。
 - ・会社の定めたクラウド以外利用禁止。
- ※iPad は Apple Inc. の商標です。



■ インシデントに対する取り組み

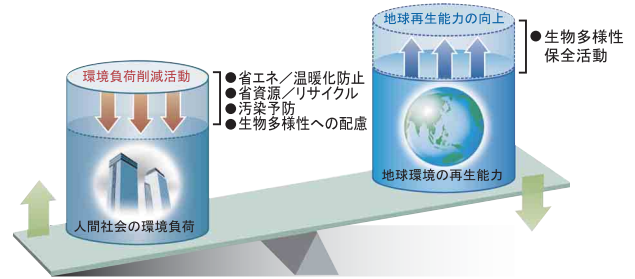
事件・事故（インシデント）が発生した場合、速やかに上司に報告し、お客様への対応を図ります。また、対応結果報告と再発防止策を DB に登録する仕組みになっており、放置するとインシデントにつながる事象・弱点も積極的に報告します。情報を共有することでルールの徹底を図りながら、インシデントの未然防止に役立てています。

インシデント対応ルール

- ・直ちに上司に報告、お客様への対応
- ・重要度レベルの判定
- ・DBへの登録（報告）
- ・原因の究明と再発防止策の決定

リコーグループ地球環境保全の考え方

リコーグループでは、環境綱領に基づき、環境保全活動と経営活動を同軸であると捉え、地球市民の使命として、自らの責任で地球環境保全に取り組んでいます。環境負荷を削減するだけでなく、地球環境の回復力を維持し高めていくことで、地球環境の保全に貢献します。



リコーグループ環境綱領

基本方針

リコーグループは、環境保全は我々地球市民に課せられた使命と認識するのみならず、環境保全活動と経営活動を同軸であると考え、自ら責任を持ち、全グループをあげてその活動に取り組む。

行動指針

1. 高い目標 法規制の遵守はもとより、自らの責任において、社会の期待を先取りした高い目標を設定し、その実現を通じて経済価値の創出に努めていく。
2. 環境技術開発 顧客価値を創造し、広く社会にも活用される革新的な環境技術開発をすすめていく。
3. 全員参加の活動 すべての事業活動において環境への影響を把握し、全員参加で汚染予防や、エネルギーおよび資源の有効利用について継続的改善を行っていく。
4. プロダクト・ライフサイクル 商品とサービスの提供にあたっては、調達・生産から販売・物流・使用・リサイクル・廃棄に至るすべての段階における環境負荷の低減に努めていく。
5. 意識向上 一人ひとりが広く社会に目を向け、積極的な学習を通して意識向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を進めていく。
6. 社会貢献 環境保全活動への参画・支援によって、持続可能な社会の実現に貢献していく。
7. コミュニケーション ステークホルダーと連携した環境保全活動を展開し、積極的なコミュニケーションを通して社会の信頼を得る。

ISO14001 認証取得

リコーグループでは、2001年にISO14001を取得し、全員参加による環境活動を進めています。活動の柱となるのが環境マネジメントシステムで、経営と環境活動を一体化し、事業活動の中に環境行動計画を取り込み活動しています。今後も環境負荷低減に向け、組織的・継続的に取り組んでいきます。



[JQA-E-70001]

2013年度 環境マネジメントプログラム

環境行動計画	目 標	2013年度実績	前年度実績
国内販売・保守活動のエネルギー起源 CO ₂ 排出量の削減	前年比 1% 削減	5.3% 削減	5.8% 削減
製品再使用量の拡大	再生複写機販売台数目標の達成率 100%	120.1%	107.2%
個別製品群ごとの回収率の向上	使用済み複合機本体回収率 95.0% 使用済みトナーカートリッジ回収率 70% 使用済みパーツ回収率 100%	90.9% 73.8% 100%	90.4% 66.1% 100%
生物多様性保全を目的とする社会貢献活動の実施	45 件以上/年度	236 件	302 件

事業活動の環境負荷を、地球環境が許容できる範囲に近づけることを目指して、環境保全活動を展開しています。

省エネ・温暖化防止活動

社員一人ひとりが意識し、オフィスでの節電対策の実施や、営業活動でのエネルギー使用量削減といった、環境負荷の低減に取り組んでいます。特に、東日本大震災以降に重点として取り組んでいる事業所での節電・省エネ活動と、営業車両の削減、軽車両化、カーシェアリングによるガソリン使用量の低減活動に力を入れています。また、事業拠点の最適配置、事業運営コスト削減の視点での事業所統廃合も進め、これもエネルギー削減に寄与しています。

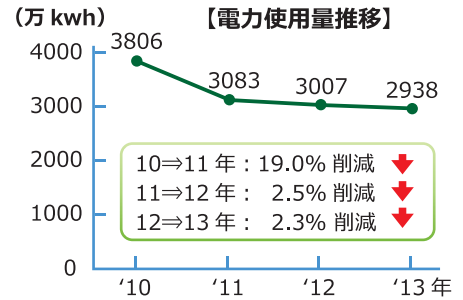
節電への取り組み

1 主な節電対策

- ・ 夏季一斉休暇の取得
- ・ クールビズ、ウォームビズの実施
- ・ 消費電力の見える化システム（電力測定器導入）
- ・ サーバー仮想化
- ・ オフィス空調室温調整（夏季目安：28℃、冬季目安：20℃）
- ・ オフィス内照明の間引き、不要な照明・広告塔の消灯
- ・ OA 機器の必要最小限稼働と、OA 機器 / PC 省エネモード設定
- ・ 定時退社の推進（照明、OA 機器 / PC 電源 ON 時間の設定）



2 取り組みの結果



ガソリン使用量削減

1 電動機付き自転車や低燃費車の積極的な導入

地球温暖化の原因となる CO₂ の発生を削減するため、大都市圏では、電動機付き自転車を導入しています。また、環境省発表の「低公害車開発普及アクションプラン」に基づいた低公害車の導入、車両入れ替え時の小型化（小型自動車→軽自動車）を積極的に推進しています。

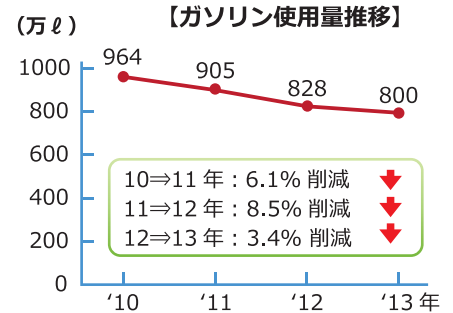


2 営業車両のエコドライブ徹底

- ① ふんわりアクセル
- ② 加減速の少ない運転
- ③ 早めのアクセルオフ
- ④ エアコン使用を控えめに
- ⑤ アイドリングストップ
- ⑥ 暖機運転は適切に
- ⑦ 道路交通情報の活用
- ⑧ タイヤ空気圧のこまめなチェック
- ⑨ 不要な荷物は積まない
- ⑩ 違法駐車はしない



3 取り組みの結果



グローバル・エコアクション

リコーグループでは、国連の定める「世界環境デー」の6月5日を、「RICOH GLOBAL ECO ACTION」として、地球環境について考え、行動する日としています。

2006年からスタートしたこの環境イベントは世界中のリコーグループが参加していますが、リコー・ジャパンでは社員一人ひとりがそれぞれのエコアクションを考え、これを『エコ宣言』としてデータベースに登録し、それぞれの宣言を実践するようにしています。本年度は約11,000人が登録しました。



社員の『エコ宣言』登録人員実績

※複数回答あり (人)

エネルギーの節約	エアコンの温度を適正値に設定する	8,469
	自然光を取り入れ照明の使用時間を少なくする	7,226
	エネルギー使用の少ない交通手段を利用する	5,491
	電気製品はエネルギーセーブモードで使用する	5,422
資源の節約	ビデオ会議を利用し外出や出張を少なくする	2,153
	両面や集約プリントを活用する	8,761
	分別を行いリユース、リサイクルする	7,606
	マイバッグを使用する	5,884
生物多様性保全活動	マイカップ、マイボトルを使用する	5,486
	公園整備や森林保全などの活動に参加する	2,861
	河川や海岸のクリーンアップに参加する	2,728
エコアクションの輪拡大	家族や友人とエコアクションを実施する	7,028
	会社や地域の環境活動に参加する	3,902

省資源化

電子データ化やプリント出力の工夫による紙の消費削減

必要な書類は電子化して共有し、勤務管理、交通費精算などはパソコン内で処理、また受信したFAXはパソコン画面で確認するなど、紙をできるだけ使用しないワークスタイルを展開しています。また、両面・モノクロ印刷を初期設定とし、印刷ドライバーで仕上がりを確認するなど紙を無駄にしない努力をしています。さらに、印刷やコピー出力はICカードによる認証システムを導入し、出力枚数や両面集約プリントの使用率などをログ管理して、ペーパーレスに対する意識を高めています。



ペーパーレス会議による紙資源の消費削減

リコーグループでは、会議の生産性向上（移動時間・交通費削減）と紙資源の消費削減のため、テレビ会議システムやプロジェクターを利用した会議・打ち合わせを頻繁に行っています。また、ペーパーレス会議は、紙資源の無駄遣いをなくすだけでなく、画面に参加者全員の視線を集中させることができますので、話題の共有化がしやすく、議事の進行がスムーズにいくという効果もあります。



ユニファイドコミュニケーションシステム (UCS)

映像と音声、そしてドキュメント、テキスト、手書き入力などの多様な情報を統合してコミュニケーションできる、UCSを活用しています。



タブレット活用による環境負荷低減

リコージャパンでは、モバイルとクラウドを活用することで営業プロセスを見直し、営業生産力向上と顧客関係力強化への取り組みを行い、全国の営業や支援スタッフがタブレット約6,000台を活用しています。タブレットによりお客様と対話形式で課題を顕在化して最適な解決策を提案し、電子化されたカタログやツールを動画・静止画の両方でご覧いただくことでインパクトのある効果的なプレゼンテーションができるようになりました。コンテンツの鮮度管理は一元化され、常に最新版が活用できます。これにより、提案資料の準備やメールの確認のためにお客様のオフィスと営業所を行き来する必要がなくなり、効果的な提案もできるため、移動時とデモ機の輸送にかかる環境負荷を削減。さらに紙カタログや販促ツールの消費量を削減し、省資源化にもつなげています。



デザイン Tab

お客様の現状に即した旬な素材（営業ツール・教育資料）が自動配信されるので、有効な提案ができるツールです。



CLOMO SecuredDocs

お客様のお困りごとや課題に応じた、動画、提案書等、さまざまなコンテンツを準備しています。いわゆる「電子キャビネット」です。



iCatalog

製品の電子カタログです。PDFファイルにページリンク機能を設定することで、興味・関心のあるページにすばやくアクセスできます。



デザインおよびデザイン Tab は、サイバーステーション株式会社の商標または登録商標です。CLOMO および CLOMO SecuredDocs は、株式会社アイキューブドシステムの商標または登録商標です。iCatalog は、株式会社 Lifebook の商標です。

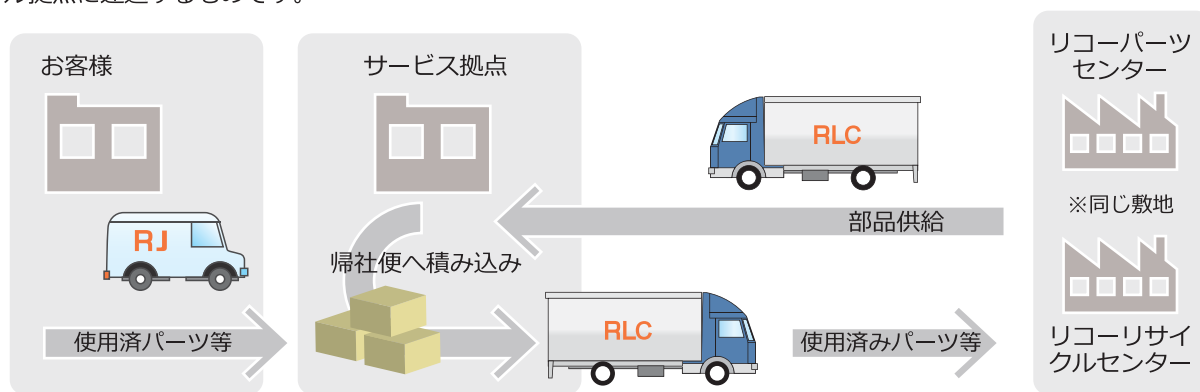
省資源とリサイクルで地球環境の負荷を削減しています。

製品・部品回収とリサイクル

リコーグループでは、環境負荷を少しでも低減するために、省資源・リサイクル活動を推進しています。グループ全体の仕組みで運用しているのは、お客様の使用済み製品（コピー機・プリンター・トナーカートリッジなど）の回収とリサイクル、およびリユース部品を使用したリコンディショニング機（再生機）の販売です。各社・各事業所では、ごみになるものを持ち込まないことを基本に、どうしても排出されるものについては、再資源化・リサイクル化を推進し、ごみの減量に取り組んでいます。

使用製品・部品の回収とリサイクルシステム

私たちはリサイクルの促進を図るため、保守サービス時に発生する交換済みパーツの回収リサイクルシステムを導入しています。このシステムは、部品回収のための配車は行わず、リコーロジスティクス（RLC）が運用している部品配送後の帰社便に、日本全国のサービス拠点から回収されたパーツを積み込み、メーカーが運用しているリサイクル拠点に運送するものです。



リコンディショニング機（再生機）の販売

私たちは、販売活動においても省資源・リサイクルを推進しています。環境配慮型製品のご提案の中で、官公庁、民間企業とも、再生機をご検討くださるお客様が増えています。

リコンディショニング機では、リユース部品使用率 80%（質量率）、製造時の CO₂ 排出量 93% 削減（新造機との比較）を実現し、環境負荷を大きく低減しています。



お客様の環境負荷低減

自社の事業活動による環境負荷だけでなく、リコー製品使用時に発生する環境負荷についても、お客様と共に削減していかなければならないと考えています。製品使用時の環境負荷の「見える化」を通じた提案活動により、お客様先で、お客様の環境負荷削減を支援する販売活動を展開しています。

お客様の活動	お客様のニーズ	製品サービスと貢献内容
選ぶとき	環境にやさしい製品を購入したい	<ul style="list-style-type: none"> リコンディショニング機、省エネ機器販売 国内工場でのキittingによる梱包材等の削減 植物由来のバイオマストナー使用による石油資源枯渇への対応
	消費電力や紙の使用実績を一括管理したい	<ul style="list-style-type: none"> @Remote ご使用状況報告書サービスによる CO₂ の見える化
使うとき	紙の使用量を減らしたい	<ul style="list-style-type: none"> 両面機能 / Scan to Email & Folder / ペーパーレス FAX による紙削減 デジタルオンデマンド印刷による印刷物の在庫削減
	消費電力を減らしたい	<ul style="list-style-type: none"> 省エネモードの活用
戻すとき	使用済み製品をリサイクルしたい	<ul style="list-style-type: none"> トナーボトル / インクカートリッジ / 使用済み製品・部品の回収による資源の有効利用

はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

生物多様性保全活動

人間社会は生物の多様性がもたらす恩恵を享受する一方で、社会からの排出物が、地球の再生能力をはるかに超える環境負荷をかけ、このままでは人間社会の存続が危ぶまれます。私たちは一刻も早く、この環境負荷を削減していかねばならないという認識のもと、2009年3月に制定された、「リコーグループ生物多様性方針」に基づき、さまざまな「生物多様性保全活動」を展開しています。また会社も活動支援の一環として、交通費やボランティア保険の費用を負担することで、環境ボランティア活動を支援しています。

リコーグループ生物多様性方針

社会は豊かな地球環境によって生まれ、その地球環境を支えている多様な生き物の営みが衰えつつあるという認識のもとに生物多様性方針を掲げる。

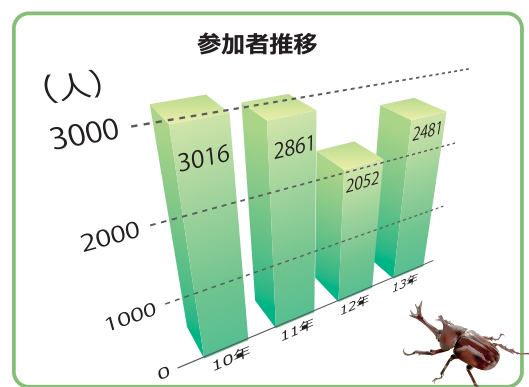
- 基本方針** 私たちは生き物の営みによる恩恵を得、生物多様性に影響を与えながら事業活動を行っているという事実を踏まえ、生物多様性への影響を削減するとともに、生物多様性保全に貢献する活動を積極的に行う。
- 1.経営の課題** 生物多様性保全を企業存続のための重要課題のひとつと捉え、環境経営に組み込む。
 - 2.影響の把握と削減** 原材料調達を含む事業活動全体における生物多様性への影響の評価、把握、分析、数値目標化を行い、その影響の継続的な削減に努める。
 - 3.進め方** 生物多様性と、事業の視点により、影響・効果の高い施策から優先して取り組む。
 - 4.技術開発の促進** 持続可能な社会の実現を目指して、生物資源を利用する技術開発、生態系の仕組みや生物の成り立ちに学び、その知恵をいかした技術開発・生産プロセス革新を推進する。
 - 5.地域との連携** 世界に残る貴重な生態系と、事業を行う国・地域の生物多様性を保全する活動を、行政機関のみならず、地域住民、NGO*などステークホルダーとともに持続可能な発展の視点をもって推進する。
 - 6.全員参加の活動** 経営者の率先した行動と全社的な啓発施策により、すべての社員の生物多様性への理解と認識を高め、自主的な保全活動につなげる。
 - 7.環の拡大** お客様、仕入先様、他の企業、NGO*、国際組織などと連携した活動により、生物多様性についての情報・知見・経験を共有し、生物多様性保全活動の環を広げる。
 - 8.コミュニケーション** 自らの活動、成果の具体的内容を積極的に開示することにより社会の生物多様性保全活動の気運向上に貢献する。

*NGO=Non Governmental Organization(非政府組織)

活動実績

ここ3年で見ると、2012年度は減少しましたが、2013年度は2,481名と増加しました。

リコーグループ全体で取り組んでいるこの活動は、地球環境負荷の削減に有効な取り組みと認識しています。現在の活動状況などの棚卸しを行い、社員が参加しやすい企画を立てるとともに自社だけが行って活動に限界があるため、もっと社会に広げられていくためにも、お客様や地域の住民の皆さまと一緒に活動を進めていこうとしています。



地球環境を支えている多様な生き物の営みが衰えつつあるという認識のもと、地球環境の復元に取り組んでいます。

福井 城山冒険の森整備活動



山形 西蔵王古竜湖周辺保全活動



北海道 石狩浜清掃ボランティア活動



静岡 藤枝瀬戸川河川敷清掃活動



宮城 千年希望の丘 植樹祭



山梨 リコーの森穂坂町自然公園保全



島根 宍道湖・中海清掃活動



茨城 鞍掛山さくらの山づくり



広島 佐伯川クリーンキャンペーン



滋賀 金勝山森林保全活動



佐賀 どんぐりこへの森保全



香川 香川ふれあいの森保全活動



神奈川 辻堂海岸 環境保全継承活動



東京 荒川クリーンエイド



荒川クリーンエイドに参加して

日頃から、「ブリタは環境にもやさしい」とコミュニケーションしていますが、あのペットボトルの多さを目の前にして、あらためてその意味や伝え方を考え直してみるきっかけになりました。

BRITA Japan 株式会社 マーケティング部
シニアマネージャー 土屋麻美 様

はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

「元気のいい会社」を目指して

私たちはリコーグループの一員として、事業活動をはじめ、社会に対する基本的責任と自主的責任を果たすためにさまざまな CSR 活動を展開していますが、これらの活動は、すべて社員あつてのことです。そこで、社員が目的意識・問題意識を持って、主体的に活躍できる「人材」に成長できるよう、人間尊重を前提とした、「人づくり」「職場づくり」を展開しています。

私たちが目指していること = 「元気のいい会社づくり」

「元気のいい会社」とは……。

- お客様への価値提供を通して、一人ひとりがその貢献を実感できている集団
- 厳しい環境の中でも互いが切磋琢磨し、高い業績に向けチャレンジし続けている集団

「元気のいい会社づくり」のために私たちが取り組んでいること

1. 社員の主体性を引き出す取り組み

2. 成果に基づいた評価・処遇の実施

3. 働きやすい環境づくり

4. 専門性を高め、それを発揮できる環境づくり

積極的にチャレンジする仕組み

- ・ 目標面談評価制度・自己申告制度
- ・ 社内公募制度・評価・表彰・処遇制度

ワークライフマネジメント

- ・ 仕事と家庭の両立支援・労働時間管理
- ・ 健康管理と労働安全衛生・休暇制度

人材開発

- ・ 職種別専門教育等の Off-JT と OJT
- ・ 自己啓発の仕組み・e-ラーニング

積極的にチャレンジする仕組み

主要な仕組み	概要
目標面談評価制度	<p>この制度は、期初に対象者が上司の面談を通じて目標を設定し、期中に進捗確認を行い、期末にその目標に対する達成度を評価・フィードバックして翌期につなげる制度であり、主に、次の3つを狙いとしています。</p> <p>①組織目標と個人目標の統合 ・組織目標を受け『自らの役割』を明確にすることにより、「組織目標」と「個人目標」を統合します。</p> <p>②役割に沿った評価指標により評価の公平性向上 ・役割を明文化し、それぞれの役割に沿った評価指標を設定した全社共通の“職種職務・市場層ごとのミッションシート”を使用することにより、個人の役割や成果が正しく評価されるとともに公平性を高めることにつなげます。</p> <p>③上司と部下のコミュニケーションの充実による評価の納得性向上 ・面談を通じ、上司と部下で、期の目標や役割、その成果やプロセスについてのコミュニケーションを充実させ、双方の意識の統合を図ることで、評価の納得性の向上へとつなげています。</p>
自己申告制度	<p>この制度は、異動に関する希望、上司に知っておいてほしいこと、会社（人事）に知っておいてほしいこと等を社員が申告し、育成や配置の参考にするものです。</p>
社内公募制度	<p>この制度は社員のチャレンジ精神をベースに、戦略的に強化したい事業分野（地域・市場）に人材を適材配置することを目的としています。社員が自ら選択できる活躍の場を設け、チャレンジする意欲のある社員のニーズに応える制度です。</p>

キーワードは、「主体性」「専門性発揮」「成果に基づく評価・処遇」「働きやすい環境」です。

社員のモチベーション向上と好事例の水平展開

リコージャパンでは全社の模範となるような顕著な業績や素晴らしい活動の成果をたたえ表彰し、リコージャパン共通の価値観を全社で共有することを目的に、過去一年間の活動を対象とした RICOH JAPAN AWARD (RJ AWARD) という表彰制度を全社あげて運用しています。この他、リコーグループ全体で「RICOH Way」に則った活動をたたえる「みのり賞」や RICOH Quality への取り組みを表彰する「RICOH Quality コンテスト」があり、リコージャパン社員は積極的に取り組んで、多くの表彰を受けています。いずれも社員のモチベーション向上と、社内での好事例の水平展開に結び付いています。

RICOH JAPAN AWARD

RJ AWARD はリコージャパンの全社員を対象とし、年間を通じた全社表彰制度で“全社員が競い合い”“高い目標にチャレンジ”していく組織文化を醸成するための仕組みで“業績”“優秀事例”“組織”の活動成果を対象としています。優秀事例については、全社員投票を行うことで社員が学ぶ機会として水平展開を図ったり、経営会議で一次審査を通過した事例の発表をもとに、厳正な審査を行い決定を行うなど、対象に合わせた審査プロセスを設けて運営しています。



社会貢献賞大賞の事例発表をする高橋さん



RJ 業績部門の表彰者



RTS 全社表彰グランドチャンピオン表彰の野瀬さん

2014年6月8日、渋谷区文化センターにて、リコージャパン、リコーテクノシステムズ、リコー IT ソリューションズ、リコービジネスエキスパートの4社総勢459名の優秀社員が集まり、“称賛、感謝、決意の集い”を開催しました。2013年度の顕著な業績への表彰に加え、顧客満足度向上や業務改善など素晴らしい活動の事例発表も行われ、今まで各社個別に行っていた表彰式を合同で行うことにより、各社の社員が持つ強みを再認識でき、新生リコージャパン発足に向けて一体感が感じられる表彰式となりました。



新人賞を受賞した神奈川支社の小谷さん

新入社員として配属された営業所の先輩方にご指導いただいたことが、今回の受賞の大きな要因だと考えています。毎日が新鮮で、常に勉強の日々でした。また、一緒に頑張っている同期、研修講師の方々からも多くの祝福をいただきました。ありがとうございました。

みのり賞

リコーグループではリコーウェイに則った活動をたたえる賞としてみのり賞があります。国内外で79の表彰のうち国内販売関連会社では10件、さらにリコーテクノシステムズでは震災復興支援特別貢献賞をいただきました。



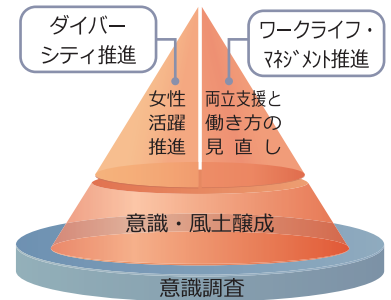
RICOH Quality コンテスト

5社合計で316件もの多数の応募があり、RICOH Quality のこだわりである「お客様起点」「お客様価値」の視点で特に優れた活動として、栄えある「RICOH Quality 賞」に6件が選ばれました。



ダイバーシティ推進とワークライフ・マネジメント

「多様化、高度化するお客様の価値観に合わせてお役立ちし続けるためには、それに従事する社員も多様であるべき」という考えが、リコー日本のダイバーシティ（多様性）推進のベースとなっています。「性別、年齢、障がいの有無、国籍や経験、経歴、出身などの違いにかかわらず、様々な個人が最大価値を発揮し、組織変革や競争力を高める」ために、様々なバックグラウンドを持ち、異なる考え方ができる社員が、お互いの違いを尊重しながら議論を交わし、切磋琢磨することで一人ひとりが成長し、組織も発展し、企業価値も向上するというのが、私たちの目指す姿です。リコー日本では、“多様な経験と高い専門性を持ったプロフェッショナル集団”を実現するために、「ダイバーシティ推進」と「ワークライフ・マネジメント」の両輪で取り組み、新しい働き方への挑戦を始めています。



ダイバーシティ推進

女性営業の職域拡大

営業や営業支援職などの顧客接点に携わる外勤女性社員8名を中心とした“女性営業戦術向上ワーキンググループ”（以下WG）を立ち上げ、女性営業の真の戦術力化を目指しています。2014年4月には、若年次の女性営業を対象とし、女性営業ならではのノウハウを集めたガイドライン“営業活動アイデア集”を発行しました。これは、先輩女性営業社員の少ない部署に配属された若手女性社員や、男性社員も含めた新人営業教育で活用されています。WG活動は、プロジェクトマネジメントを意識した手法に沿ってテーマを検討することで、ビジネススキルの習得にも役立っています。

女性のための
営業活動アイデア集

～ダイバーシティ推進委員会
女性営業戦術向上WG～

コンテンツ

聞いてみました！女性営業の悩みって？

1. 営業として認めてもらえないかも？
2. 関連部署やベンダーさんとのやりとりに苦戦…
3. 慎重になりがち、消極的に見えるかも…
4. お客様から飲み会やSNSのお誘いが…
5. 上司とのコミュニケーションがうまくとれない…
6. 業績が悪い、進捗が悪い時に落ち込んでしまう…

女性社員の意識変革研修

女性社員の活躍支援の一環として、能力と意欲のある女性社員を登用することを目的とした階層別の育成施策を実施しています。“キャリアマーチャンダイジング研修”は、管理職手前の優秀女性社員が対象です。将来の自分のありたい人材像を設定し、そこに向けて自分のスキルを点検して課題を抽出し、目指す人材へのアクションプランを実行するプログラムです。

プログラムの流れ

11月 12月 1月 2月 3月 4月

上司
女性社員

CC研修 → フォロー → CMD研修

アクションプランへの取り組み

キャリア面談実施

CC研修=キャリアコーチング習得研修(1日)
CMD研修=キャリアマーチャンダイジング研修(1日)

研修ラインナップ

部長クラス	女性管理職勉強会 & 交流会(計画)
課長クラス	女性管理職候補育成研修
係長クラス	キャリアマーチャンダイジング研修
主任クラス	女性社員向けフォーラム
一般	

女性のエンパワメント原則(WEPs)への署名

2013年5月に国連グローバル・コンパクトとUN Womenが共同で策定した「女性のエンパワメント原則：WEPs」への支持を表明し署名しました。WEPsは、女性が可能性を十分に発揮し、能力を高め、その努力を正当に評価されるような労働環境・社会環境を整備することを定めた行動原則です。当社では、女性の力を企業活動に活かす取り組みをさらに加速させていきます。



多様な人材が活躍できる“働きがい”のある会社を目指しています。

■ 全社員へのダイバーシティ活動の情報発信

全国 366 拠点、社員数約 2 万人の社員に情報を伝えるために、電子社内報を利用し、ダイバーシティ推進活動の情報発信をしています。多様な地域・職種で仕事をする社員が多いなか、ロールモデル（模範）となる社員を紹介する『スイッチ ON! の瞬間』では毎回多くのアクセス数があり、共感やヒントを得ているという社員のコメントが寄せられています。

スイッチ ON! の瞬間

常にしなやかな
考え方を
持って、
ポジティブに
取り組む。



女性社員の皆さんへ
ぜひ、財務の営業マナーを目指して欲しいと思います!

■ 定年再雇用社員の職種開発

2005 年より定年退職者再雇用（シニア）制度を導入し、定年後の社員の能力活用に取り組んでいます。年々増加する再雇用社員の活躍の場として、より顧客接点に近い職場・職務について、シニア社員ならではの働き方を提供しています。



ワークライフ・マネジメント

■ 復職支援セミナー

育児休業からの復職予定者に対して、すでに復職している社員による体験談を伝え、必要な手続きや制度説明を実施することで、不安軽減を図っています。子育て支援などに積極的に取り組む企業として、2012 年より次世代認定マーク「くるみん」を取得しています。



■ ファミリーデー（子ども参観日）

ワークライフ・マネジメントのさらなる推進を図るため、小中学生対象の子ども参観日を実施し交流を図りました。家族に職場への理解を深めてもらうとともに、それぞれの社員に大事な家庭があるということを経営全体で再認識し、ワークライフを考えるきっかけになっています。



■ 育児支援制度

社員の出産・育児と仕事の両立をサポートするための制度です。

● 育児休業

子が 2 歳になる月の月末まで取得可能です。

利用実績

・女性 224 名（'13 年度）
・男性 26 名（'13 年度）

● 育児短時間勤務

子が小学校 3 年生の学年度末までの短時間勤務（5h・6h・7h）を利用することができます。

利用実績

・女性 356 名（'13 年度）
・男性 3 名（'13 年度）

※2013 年度 女性社員の育児休業取得率は 100%

育児休暇ときました！ 関西事業本部 徳島支社 池内 俊之さん



諸先輩方のご理解とご支援により、3 カ月間の育児休暇を頂きました。5 月 1 日に誕生した双子のわが子も、休暇期間中に入院はしたものの、沐浴をしたりオムツを替えたり、ミルクを飲ませたり寝させたりと、かなりのエネルギーを費やします。とにかく育児は大変だなあと感じました。復職してから妻への感謝と労いの気持ちを常に持たないといけないと感じました。日々子どもの成長が見られて楽しかったです。

■ 介護支援制度

病気や怪我などで、常時介護を必要とする家族のいる社員をサポートするための制度です。

● 介護休業

2 年間を限度に介護休業と短時間勤務が利用できます。

利用実績

・女性 2 名（'13 年度）
・男性 1 名（'13 年度）

● 介護短時間勤務

利用実績

・女性 3 名（'13 年度）
・男性 0 名（'13 年度）



人材開発の仕組み

人材育成の基本方針

リコーグループは、社員の能力開発は自己啓発を基本とし、会社は、一人ひとりが世の中に通用する専門性を身につけるための支援を行うことを役割として、以下の、「リコーグループ育成方針」を定めています。グループ各社はこの育成方針に沿って、それぞれの機能別教育体系を構築しています。

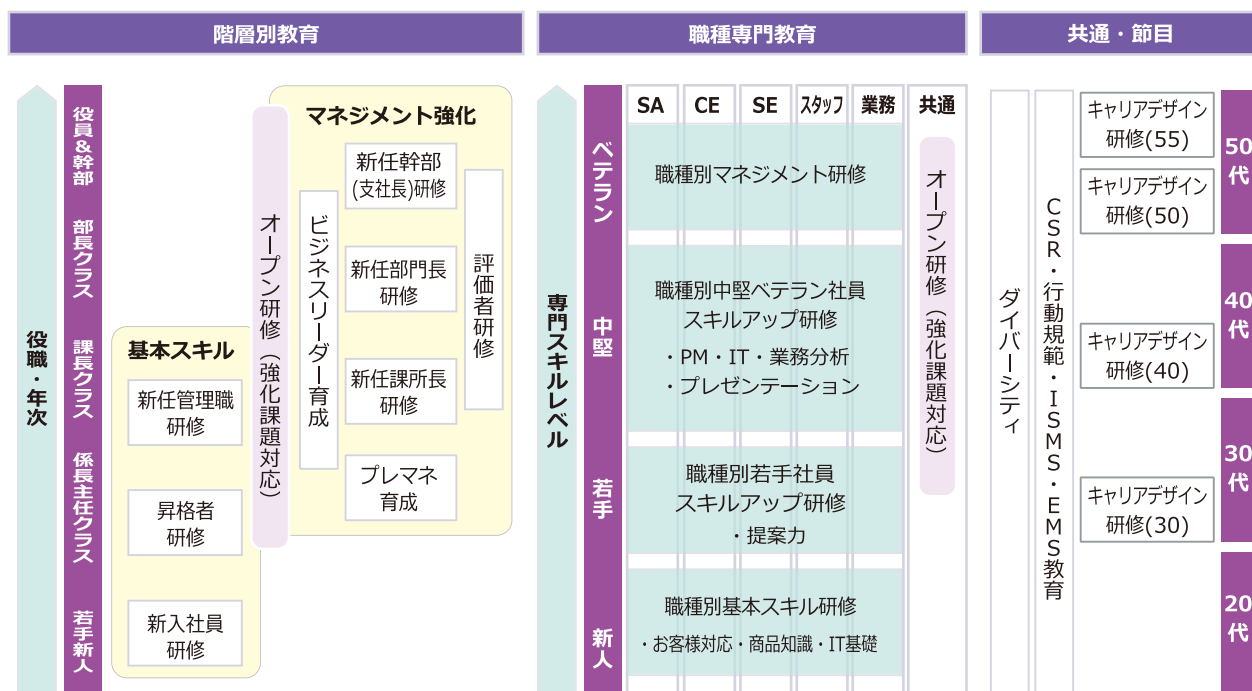
リコーグループ育成方針

- ①全ての社員が持てる能力を最大限高めることのできる育成の機会を提供する。
- ②自らリコーウェイを実践しながら、卓越した業績をあげることのできるリーダーを養成する。
- ③グローバル市場で戦うことのできる経営幹部、及び、事業・技術のプロフェッショナルを育てる。



ビジョン実現を目指した育成の考え方と教育体系

リコーグループ育成方針に沿って育成環境を構築していく上で重要なことは、変化し続ける市場環境にあっても、それに対応して成長し続けることができる、「強い育成風土を構築」することだと考えています。その軸は、「自ら育つ」という成長意欲を醸成できる育成環境の整備と、「現場で育てる」という風土にしていくための、事業成果+人材育成の両軸でマネジメントできる組織職・次世代経営幹部の育成と考え、私たちはこれに沿った教育体系を、各社の事業に応じて構築しています。



※教育体系図は、主なものだけを掲載しています。全コースは網羅されておりません。

※階層別教育の職位名やコース名は、一般的な表現に置き換えて掲載しています。

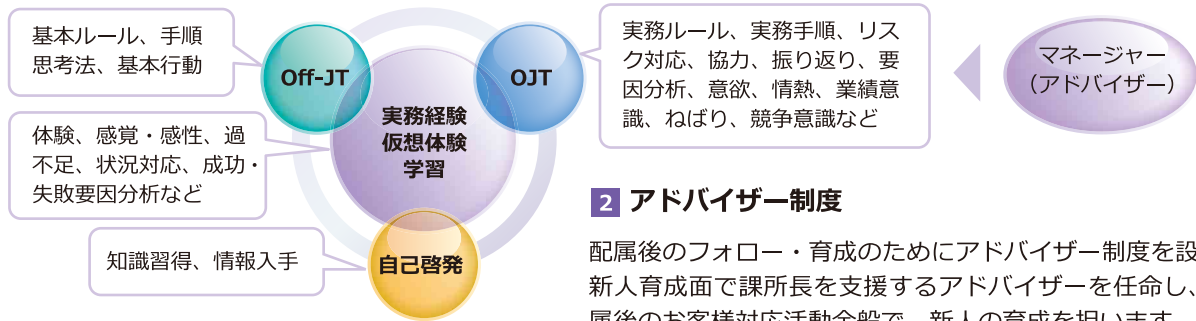
※SAはセールス、CEはカスタマーエンジニア、SEはシステムエンジニアの略です。

会社（組織）が人材育成に全力で取り組み、一人ひとりが自己成長できる環境を整備しています。

■ 新入社員の早期育成

お客様訪問時には、たとえ新入社員でも立派なリコーの代表。そこで、お客様に早く価値提供ができるように、集合研修の期間内で販売活動等を体験して配属するとともに、配属後2年間育成をサポートするアドバイザー制度を設けています。14年度においても RTS、RITS、RBX 等、国内のお客様を担当するリコーグループ各社合同で、新入社員 349 名の実践型研修をスタートさせました。

1 育成手段と主な学習内容



2 アドバイザー制度

配属後のフォロー・育成のためにアドバイザー制度を設定。新人育成面で課所長を支援するアドバイザーを任命し、配属後のお客様対応活動全般で、新人の育成を担います。同時に、アドバイザー自身の部下育成スキルの向上も図ります。

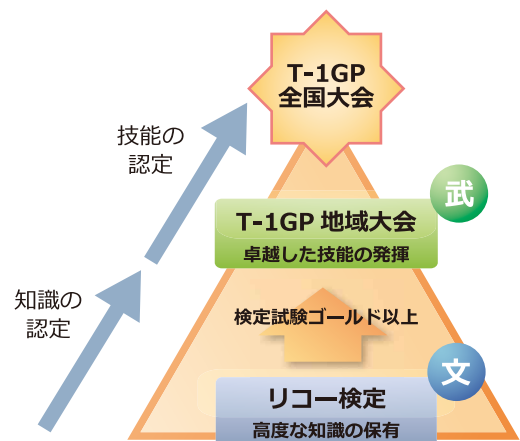
■ 節目教育

世代ごとの特性や課題に合わせて 30、40、50、55 歳の節目で「キャリアデザイン研修」を実施し、社員一人ひとりが、自分自身の実現したいキャリアと会社の中で目指すべきプロ社員としての方向性を確認し、自分の職務遂行上の特性（強み・弱み）を踏まえて、プロとしてありたい姿の再設計をし（キャリアプラン）、実現に向けた道筋を描きます。



■ “技術” を誇るプロ集団づくり

高度な知識と卓越した技能を活かしながら職務を円滑に遂行し、文武両道で周囲の模範となっている社員を対象に「T-1 グランプリ (GP)」を開催し、品質と技術にこだわる文化を醸成しています。ご販売店を含む全国約 5,600 名のカスタマーエンジニア (CE) のなかで優秀な成績を収め、地域大会を勝ち抜いた 32 名が全国大会に進み、テクニカルスキルを競い合います。参加者からは「培った技術力・提案力を発揮でき、認めてもらえる大会です」という声が寄せられ、CE の成長につながっています。

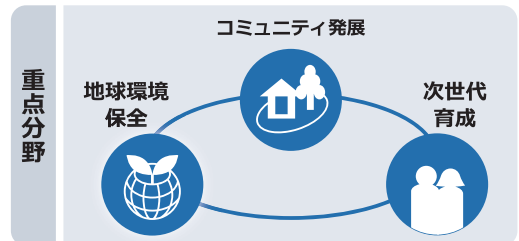


リコーグループの一員としての社会貢献

リコーグループでは、社会が抱えるさまざまな課題に真摯に向き合い、社会と共に成長する企業を目指してグループ・グローバルの社会貢献基本方針を設定し、共通コンセプトに基づき、各グループ会社の強みや人材・リソースを活かした社会貢献活動に取り組んでいます。

リコーグループ社会貢献基本方針

リコーグループは「良き企業市民」として、国または地域の文化や習慣を尊重し、志を同じくする人々とのパートナーシップのもと、会社と社員が協力し合い、地球・社会の持続的発展に貢献するために、重点分野を定めた社会貢献活動に取り組んでいます。



地球市民の使命として、自らの責任で地球環境保全に取り組んでいます。環境負荷を削減するだけでなく、地球環境の回復力を維持し高めていくための生物多様性保全にも取り組んでいます（活動内容は、p21～p22を参照）。



地域社会との共存・共生、そして共に発展することを目指し、コミュニティのニーズに即した社会貢献活動に取り組んでいます。実施にあたっては、国際社会が抱える課題である「ミレニアム開発目標（MDGs）」「社会（ステークホルダー）との協働」「自社の事業成長にもつながる取り組み」を重視しています。



リコーグループが提供する体験・活動プログラムに触れた子どもたちが、企業や職業に関心を持って成長し、将来、夢を持って社会へ踏み出せる環境を創る。それが企業と社会の持続的発展につながる“夢のサイクル”だと考えています。

リコー・サイエンスキャラバン



科学の不思議と楽しさを体感することで、より多くの子どもたちに科学を好きになってもらう機会を提供するプログラムです。コピー機の原理を体験する「コピー機になってみよう!」、複合機のスキャナー機能を活用して子どもたちが描いたモンスターを戦わせる「熱闘!紙バトル」や、レーサーを競わせる「激走!紙レーサー」などを全国展開しています。2013年度は42回の開催を通じ、延べ23,381人の子どもたちが参加しました。これらのプログラムの運営には、リコーグループ各社の社員が機材の運搬や機器のメンテナンス要員および説明スタッフとして、それぞれの立場で関わっており、延べ823人のグループ社員が自主的にボランティアとして参加し、子どもたちとの交流を図りました。



かがく・あそび

参加者の声

首都圏事業本部 MA事業部 杉田 義勝さん

サイエンスキャラバンに参加するたびに、子どもたちの素直な反応に感激しています。満面の笑みで「去年も来たんだよ!」と言ってくれたり、作成したシールを手にしたときに、体全体で喜びを表現してくれるお子さんもいます。保護者の方も熱心に質問して下さいます。自分の知識を活かして社会貢献できる充実感に加え、さまざまな方々との交流の機会を得ることもできてほんとうに参加してよかったと思っています。他の社員にもこのプログラムに参加して、楽しみながら社会貢献活動を行うことをすすめています。



企業市民としての役割を自覚し、地域社会の一員として、積極的にさまざまな社会貢献活動を展開しています。

リコー社会貢献クラブ・FreeWill



リコー社会貢献クラブ・FreeWill は、1999年に発足した社員参加型の支援組織です。一人ひとりの浄財を、より多数の参加と継続によって、全体として大きな資金として社会貢献活動に資することを狙いとし、会員社員が毎月の給与と賞与の端数を拠出。集まった資金は、さまざまな分野で社会的課題解決のために取り組みを行っている NPO 等の支援に役立てています。また、支援先をお招きしてチャリティーグッズ・フェアトレード商品などの社内販売会を行い、買い物を通して、支援先の活動、生産者の現状を知る『買う&知るボランティア』、全国の会員が参加できる活動として認定 NPO 法人桜ライン 311 の「桜の植樹活動への参加」や、認定 NPO 法人 ESA アジア教育支援の会との協働による「世界に届け！ FreeWill 絵本プロジェクト」を実施しました。

寄付支援

リコー社会貢献クラブ・FreeWill では、2013年度は43団体へ寄付支援を行い、リコージャパンの会員からは17団体の寄付先の推薦がありました。東北の復興を新しいスポーツ競技の普及で目指す一般社団法人水風戦協会では、FreeWillからの支援金によって、新しいスポーツ競技を理解してもらうためのルールブックが作られました。会員の応援したい気持ちが、さまざまな場面で役立てられています。



買う&知るボランティア

『買う&知るボランティア』は、買い物を通して支援先の活動を知る機会になっています。大阪の谷町事業所では、毎月第3水曜日に、社会福祉法人大阪府肢体不自由者協会が運営する障がい者支援施設、おりひめベーカリーのパンを販売しています。人との触れ合いで社会復帰を目指している利用者が販売も担当しており、毎回売り切れるほど盛況です。



桜の植樹活動への参加

認定 NPO 法人 桜ライン 311 の活動は、岩手県陸前高田市内の全長約170kmの津波の到達ラインに10mおきに桜を植樹し、津波の怖さ、備えの重要性を子孫の世代まで伝承し、風化させないための活動です。2013年11月から翌3月までの計3回にわたって、全国から抽選で選ばれたリコージャパンの会員18人が、桜の植樹活動に参加しました。参加者からは「自分も何かしたいと思っていたので夢がかなって嬉しいです。小さなことからでもできることからやってみようと思っています」という声が聞かれました。



世界に届け！ FreeWill絵本プロジェクト

バングラデシュの小学校に通う子どもたちの各家庭へ、日本語の絵本にベンガル語訳のシールを貼って贈る「世界に届け！ FreeWill 絵本プロジェクト」を実施し、リコージャパンの会員161人が参加しました。シレット地区にあるゴワバリ小学校、カラグール小学校、ムングラ小学校に通う生徒は、村からほとんど外に出たことがなく、インフラも整っていないため、テレビなどの外界の情報を得る手段がありません。絵本は子どもたちの宝物となり、彼らの夢と可能性を大きく広げてくれるに違いありません。



次世代育成への取り組み

■ 職場体験を通じて

銀座本社事業所では、品川区内の中学生の職場体験を受け入れました。2日間の職場体験で、リコーの最新機器に触れてもらったり、社会人として大切な基本動作や、名刺交換のマナー、オリジナルノート作り等のプログラムを実施しました。佐賀支社では3人の中学生が、部品の番号確認やパーツ入れを作るなどサービス拠点ならではの活動をしました。

東京



東京



佐賀



体験した中学生の声

職場体験で社会で働く人の大変さ、楽しさ、ビジネスマナーの必要性、大切さを知ることができました。一人の社員の挨拶や態度で、会社の印象が決まってしまうということを知り、社員一人ひとりの責任の大きさがよく分かりました。今回の学びを、これからの自分の将来に活かしていこうと思います。

講師を体験した社員の声

慣れない職場体験の中で、名刺交換、お客様をおもてなしする準備、社員への挨拶など、一生懸命に取り組んでいた姿が大変印象的でした。一人ひとりの社員のおもてなしの心や接客態度が、企業全体の評価や印象につながります。とても大切なことを体感されたのではないかと思います。

リコー製品による教育分野での貢献

■ 遠隔地と結んで英語の授業を実施

国際基督教大学（ICU）と荒川区立尾久宮前小学校を、リコーの UCS でつなぎ、ネイティブの講師による英語授業が行われました。ICU 講師による英語での自己紹介や、母国の文化についての説明が行われた後、生徒からは学校行事の紹介などがありました。生徒にとっては、さまざまな人とつながる喜びや、大学の雰囲気を感じることができ、英語学習の活性化につながっています。（UCS は p19 参照）

※UCS : Unified Communication System

■ プロジェクターで生徒の理解向上へ



奈良女子大学附属中等教育学校では、体育の授業やゼミ形式の特別授業に超短焦点プロジェクターを活用しています。バスケットボール部では、シュートを打つ映像をスマートフォンで撮影し、それを体育館壁面のホワイトボードに映し出し、マーカーペンで位置取りの注意点を書いて説明します。言葉だけでなく、ビジュアルで「見て分かる」指導を実践し、生徒の理解向上に役立っています。



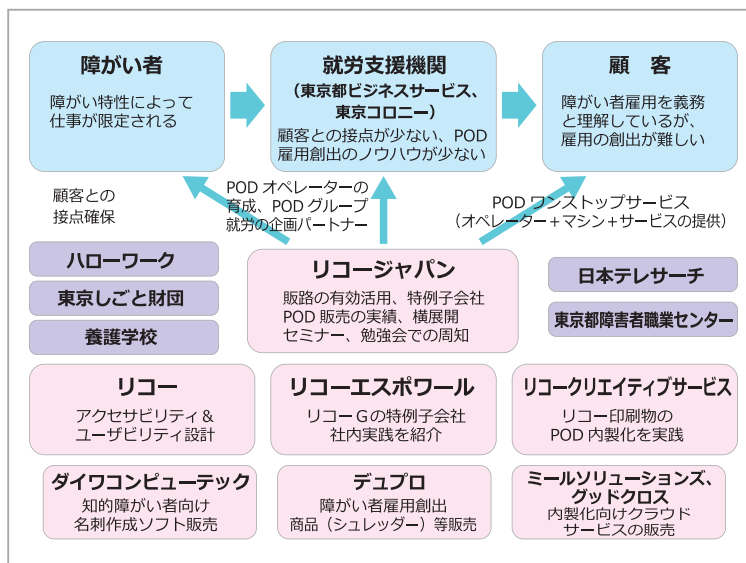
企業市民としての役割を自覚し 地域社会の一員として、積極的にさまざまな社会貢献活動を展開しています。

お客様・パートナーにも広がる社会貢献の輪

障がい者就労支援をリコーPODでお役立ち

2013年12月11日、リコー プリンティングイノベーションセンター(通称PIC)で、東京都ビジネスサービス様と共に、障がい者就労支援フォーラム in PIC を開催しました。本フォーラムでは障がい者雇用の現状と支援策、また、精神障がい者の特性などを専門機関・企業の方々より説明をいただいたほか、RICOH Pro C651EX を導入されている日本テレサーチ株式会社様から、POD業務を活用した障がい者の就労事例を報告いただきました。セミナー終了後はPICにて、実際に障がい者委託訓練修了者の方が、RICOH Pro C751EX を利用し、カタログとPOPの制作を実演しました。多数の方にご参加いただき、PODソリューションによる障がい者雇用への関心の高さが示されました。

※PODはプリントオンデマンドの略です。



PPS 事業本部
河上 剛さん

リコージャパンではこれまで高速印刷プリンターの導入により、障がい者の方にもスムーズに業務を進めていただくソリューションを提案してきました。私は、障がい者の方には職業訓練を受けて“社会の一員になりたい、仕事をしたい、役に立ちたい”という人が多くいることと、なかなか理解してもらえず、社会にも出られないという現状を知りました。そこで“私たちの仕事を通じて一人でも多くの障がい者を社会に送り出したい。もっと障がい者の方のお役に立てないか”と考え、障がい者雇用に関わる外部組織と連携をしながらイベントを実施しました。お客様と障がい者の就職、就労をマッチングする場を企画し、社会課題の解決と商品の販促活動を同時に行うことで、持続可能な活動を展開することができるようになりました。

ショッピングポイントを寄付へ役立てる

オンラインショッピングサイト「NetRICOH」では、購入金額に応じてお客様がためたポイントを「環境保全活動」「社会貢献」「震災復興支援活動」への寄付金として役立てることができます。2014年7月1日現在(2011年実施の東日本大震災ご寄付分は除いております)3,080件5,015個・口(ご寄付1,086件2,485口含む)、6,416,500ポイント(ご寄付分3,115,000ポイント、寄付額1,557,500円含む)を「環境・社会貢献」メニューよりギフト交換していただきました。これからも、お客様・パートナー・リコーグループが一体となって、社会へ支援の輪を広げていきたいと考えています。



はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

各地域の社会貢献活動

地域美化活動

全国の事業所では、定期的に地域の美化活動を通して町をきれいにしています。今日もどこかでごみのない美しい町づくりのために地域清掃が行われています。

街の美化に努めよう



以前に比べると随分きれいな地域になりましたが、たばこの吸い殻や近くの公園からは空き缶も多く回収されます。清掃の日は朝から気持ちよく仕事ができます！



関西事業本部 ビジネスサポートセンター 奥野 久士さん

国土交通行政関係功労者表彰式

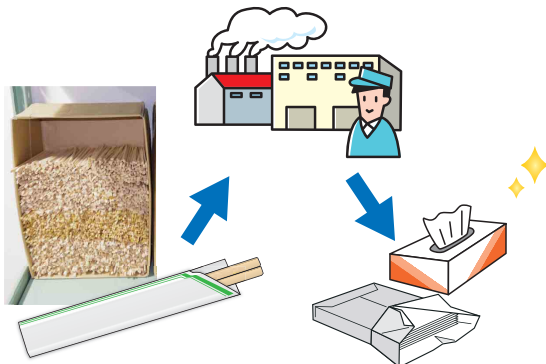


愛媛営業部（現愛媛支社）は長年の道路清掃活動に対して、国土交通省四国地方整備局から平成25年度の「道路関係功労者」の表彰を受けました。



割り箸リサイクル

北海道事業本部では 10 年以上前から、使用済みの割り箸を回収し、製紙工場に送ってリサイクルに役立っています。割り箸三膳で A4 判用紙の 1 枚分、10 kg の割り箸からティッシュペーパー 15 箱分の再生紙が作られます。昨年 1 年間で集められた割り箸は 32.2kg で、割り箸だけでティッシュペーパーを作ったと仮定した場合の換算で 48 箱分になります。日本では年間 230 億膳が作られているという割り箸ですが、小さな活動でも毎日の積み重ねがこのような結果になりました。



使用済み切手・ハガキの収集

書き損じのハガキや使用済みの切手は、リコー社会貢献クラブ・FreeWill で分類・集計をしてから支援先へ寄贈されます。2013 年度は切手 1.9kg、ハガキ 216 枚、総額 19,475 円分が FreeWill に集まりました。ある地域ではパートナーのお客様から、「会社に届く郵便物の切手部分を切り取るだけでできる社会貢献があるなら、ぜひ参加したい」と言っています。



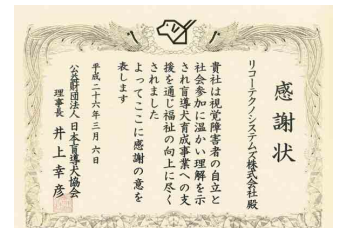
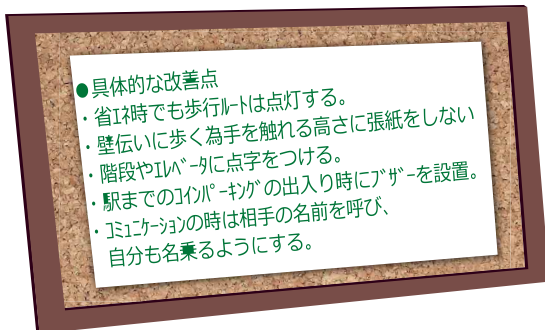
FreeWill イメージキャラクター
愛の人くん

企業市民としての役割を自覚し 地域社会の一員として、積極的にさまざまな社会貢献活動を展開しています。

■ 視覚障がい者への理解を広める

リコーテクニカルコールセンター（東京）では、お客様に対して電話でサポートをしています。社員は長時間同じ姿勢で仕事をしているため、専用のマッサージルームを利用することができます。そこで利用者が毎回支払う 200 円の料金を、日本盲導犬協会へ寄付をしており、今年で 8 回目を迎えました。毎年行っている寄付金の目録贈呈式では、訓練センターの方や盲導犬ユーザー、バギーウォーカーの方をお招きして、講演会やグッズ販売会、盲導犬の仕事や訓練の紹介、体験歩行を実施しています。夏休みには、訓練センターで家族と学ぶ「盲導犬体験デイ」にも参加し、社内外を問わず盲導犬への理解を広めてきました。これまでの寄付金額は 100 万円を超え、盲導犬協会への継続した支援に対して、このたび感謝状をいただきました。

また、講演会に参加して、視覚障がい者の方が歩行時に遭遇するさまざまな危険性や、日頃のコミュニケーションで困っていることを知ったことで、職場内や近隣に働きかけて具体的な改善が実施されるようになりました。



■ ラグビー部員によるラグビー教室



関西ラグビー部の 4 名の部員が小学校を訪問し、ラグビーを全く知らない子どもたち 32 人を対象にラグビー教室を実施しました。ラグビーを通じて地域貢献をさせていただこうと、ボールを使ったレクリエーションを中心に行ったところ、終始笑顔があふれ、ラグビーの楽しさを知ってもらうことができました。



■ 福祉施設で協同作業

群馬支社では「ひまわり会」と名付けたプロジェクトチームで、地域社会貢献として何かできることはないかを考えた結果、福祉施設への訪問ボランティアをすることになりました。社会福祉法人橘風会ねむの丘を訪問し、手作りカレンダーを施設の高齢者の方々と一緒に作ることを通して、コミュニケーションを図りました。



東日本大震災復興支援活動

未曾有の大災害となった東日本大震災。あれから3年半の月日が流れようとしています。リコーグループでは当初のモノや義捐金などの支援から、人による支援、そしてメッセージを届けたり物産展をはじめとした地域経済復興の支援なども行ってきました。しかしながら地域経済も、住民の皆さんにとってもまだまだ復興は道半ばです。これからも、まだご支援できることは沢山あるという思いから、被災された地域の皆さんが元気になることを願い、復興支援活動を継続しています。また、次なる備えのために震災を通じて学んだ教訓や知識を共有することも、社会貢献活動として行っています。

東北復興応援ボランティアチーム

2013年度末までに計15回の宮城県石巻市での活動を実施し、計98名が参加しました。地元の漁師さんをはじめとした住民の皆さんから感謝され、参加した社員はもちろんのこと、職場の同僚にも現地の状況や復興への活動の重要性を伝えることができました。2014年度からは、原発による避難区域指定が解除された福島県田村市都路地区で、地域とそこに住む住民の方の魅力を発見し、発信することで地域コミュニティの再生を支援しています。



ホヤ貝の養殖のために牡蠣の殻に穴を開け1つ1つ手作業で紐に通していきます。全てが手作業のため、作業時間はかかりますが、その分収穫が楽しみです。



震災後そのままになっていた小学校の防災倉庫にあった備蓄品の片づけをしました。1階の倉庫から4階の屋上まで運搬し、いい汗をかきました。



小学校と仮設住宅の雪かきをしました。“職員だけではとても難儀だった除雪をしていただき、大変助かりました”と小学校の先生から感謝されました。



東北復興応援物産展

首都圏では東北3県の物産展を、随時開催しています。被災3県の物産購入による産業復興支援を目的に、累計で17回開催。復興庁が主導する現地の商品開発や販売促進にもつなげる“企業マルシェ”では、アンケートにも協力しました。その場に来られない社員も購入できるよう、社内のデータベースから注文を受け付け、全国からの購入と給与天引きを可能にしました。2014年8月からは、売上金額の一部を被災3県の震災遺児・孤児を支援する団体に寄付しています。



UCSを使った3.11防災授業

平成25年10月に、東京都の武蔵野市立本宿小学校と宮城県の仙台市立八乙女小学校をつなぎ、命を守る交流授業が行われました。本宿小学校では150人を超える父兄を含む近隣の方々も参加されました。『共に生きよう』のテーマで、6年生の生徒同士が、それぞれ考えたことを発表したり、積極的に質問をし合うなど有意義な授業となりました。



※UCS: Unified Communication System



企業市民としての役割を自覚し、地域社会の一員として、積極的にさまざまな社会貢献活動を展開しています。

「真の気づき・教訓」改訂版発行

「真の気づき・教訓」は、リコージャパンをはじめ東北地区のリコーグループ社員から寄せられた 207 件の体験メッセージの中から、次の災害に備え、「家族を守る」という視点で役に立つ情報をまとめたものです。「震災時は大混乱。覚えておこう 5 段階対応」「家族が分かるように家に貼り紙をして避難先を知らせる」「津波は何度もやってくる。警報が解除されるまでは絶対、家に戻るな」「家族会議で合流する場所を決めておく」など、被災した東北地区の社員一人ひとりが実体験の中で気づいたことを 35 の教訓としてまとめ、社員からのメッセージとともに紹介しています。

甚大な被害をもたらした東日本大震災の体験を風化させないため、2012 年 10 月に発行した「真の気づき・教訓」を第 I 部とし、新たに東北地区社員が次なる備えとして、“今何を行っているのか”をまとめた内容を第 II 部として追加し、2014 年 7 月に改訂版を発行しました。また、震災を忘れず備えることの大切さを伝えるために「真の気づき・教訓」をベースにした震災体験メッセージセミナーを全国各地で展開しています。



BCP は社員と家族を守ることからスタートとはまさにその通りです。当社でも、家族の安全という視点を BCP に取り入れたいと思います。

※BCP：事業継続計画。「万が一の大災害や事故」が発生した場合に、それによる被害を最小限に抑え、事業をすぐに復旧し継続できるよう構築する計画。



累計 34 回実施 (2014 年 9 月時点)

NPOと社員との対話「石巻The談会」

復興支援活動をすすめるにあたっては、関連するステークホルダーから情報を入手し、意見交換をしながら何が必要とされているかを明らかにすることが重要です。2013 年 10 月 24 日、銀座の本社事業所にて「石巻 The 談会～震災から 2 年半を経て～」を開催し、社員 31 人が参加しました。前半は、石巻市在住の NPO 法人 JEN 小暮様にお話を伺い、後半は石巻ボランティアに参加経験のある社員 3 人も加わってパネルディスカッションをしました。震災からの経緯や現地の状況を知ることに加え、現地で何が求められているかを理解する一助となりました。



販売戦略本部ソリューション推進センター
中村 謙介さん



経営管理本部 管理統括センター
田浦 夏生さん



販売戦略本部 ソリューション推進センター
高橋 伸治さん



NPO 法人 JEN 東北事業部
小暮 広行さん

※ 3 人共、同会開催時の所属部署名です。



「忘れてはいけないと改めて感じました」「このようなイベントを今後もどんどん開催してください」「2 年半たって気負わずにボランティアに参加できると感じました」「次回の石巻ボランティアに応募します」

はじめに

CSR の考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

ViCreA (ヴィクレア: Value innovation Creative Area) は、私たちのワークスタイル変革へのチャレンジを、お客様にご体感していただく空間、「LiveOffice」です。

ViCreA では、「社内実践事例」のご紹介を通して、お客様の価値創造へのお役立ちをさせていただきます。自ら実践した内容だからこそ、成功事例はもちろんのこと、失敗談も含めた生のノウハウを、お客様に自信を持ってご提供することができると考えております。全国各地の ViCreA にてお客様をお待ちしております。

ViCreAでご紹介している実践内容

経営基盤強化

持続的な成長に向けたゆるぎない経営基盤づくり



- 5S 活動の徹底
- セキュリティ強化
- コンプライアンス強化
- 事業継続計画
- 環境負荷削減

- ・ クリアデスク・クリアスクリーンの徹底
- ・ IC カード (社員証) による入退室管理・認証印刷
- ・ 毎月のセルフチェックによる社員教育の実施
- ・ 社員安否確認システムの導入
- ・ 環境に配慮した節電への取り組み

ワークスタイル変革

進化するIT環境に対応し、新しいワークスタイルへの変革を実現



- 働きやすいオフィスづくり
- 営業職直行直帰型ワークスタイルへの変革
- 出力環境の最適化

- ・ ユニバーサルレイアウトの導入によるマネジメント変革
- ・ 職種に合わせたデスクスタイルの導入
- ・ 営業職の直行直帰ワークスタイル変革へのチャレンジ
- ・ 出力環境の最適化による機器台数の削減

業務プロセス改革

IT活用・業務の可視化/改善の実施による効率の良い業務プロセスへ



- 通信業務の改善
- グループウェア活用による業務効率向上
- 会議スタイルの変革

- ・ 直通内線の活用促進による取り次ぎ業務軽減と集中化
- ・ リコー UCS 活用による出張経費、移動時間の削減
- ・ インタラクティブホワイトボード活用による打ち合わせ効率 UP
- ・ 会議スタイルの見直しによる業務効率向上

売り上げ拡大

社員が働きやすい、オフィスづくり



- 営業提案力強化
- 報奨制度の見直し
- 人材育成環境の整備
- マネジメントプロセス改革
- 情報発信力の強化

- ・ タブレット端末を活用した営業提案力強化
- ・ 社内報奨制度改革によるモチベーション UP
- ・ 経営情報の可視化による集計・分析業務効率の向上
- ・ デジタルサイネージによる社内・社外への情報発信

はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

私たちは、課題解決のためのさまざまな実践事例を、お客様と共有したいと考えています。



スタイル」 変革へのチャレンジを、お客様に体感していただく空間 『ヴィクレア』

ViCreA ご案内の流れ

ViCreA では、お客様のご要望に合わせて、ご紹介の内容や時間を調整させていただきます。お気軽に、弊社担当営業までお申し付けください。



共有させていただいた内容をもとに、お客様の課題解決へのご提案、さらなる情報提供を実施いたします。

ViCreA ご来場実績・ご来場いただいたお客様の声

1,661
ご来場
社数

※'13年4月
~'14年3月

お客様の声

- 他社の執務エリアを実際に見学させていただく機会はなかなかないので、とても参考になりました。
- 今後の自社のペーパーレスや省エネ対策の進め方について具体的なイメージが湧きました。
- オフィスづくりのノウハウやさまざまなツールを現場でどう活用しているかが、非常に分かりやすかったです。

全国 ViCreA 拠点一覧



ViCreA 札幌	ViCreA 甲府	ViCreA 名古屋
ViCreA Satellite 旭川	ViCreA 山梨中央	ViCreA Satellite 三河
ViCreA 仙台	ViCreA Satellite 富士吉田	ViCreA Satellite 豊橋
ViCreA 郡山	ViCreA みなとみらい	ViCreA Satellite 名北
ViCreA さいたま	ViCreA たまち	ViCreA Satellite 尾張
ViCreA 水戸	ViCreA Central	ViCreA Satellite 岡崎
ViCreA Satellite つくば	* ViCreA 東京	ViCreA Satellite 名南
ViCreA 宇都宮	ViCreA 日本橋	ViCreA 四日市
ViCreA 前橋	ViCreA 新宿	ViCreA Satellite 津
ViCreA 新潟	ViCreA 東静岡	ViCreA 大阪
ViCreA Satellite 長岡	ViCreA Satellite 相模原	ViCreA 広島
ViCreA 長野	ViCreA 幕張	ViCreA 岡山
ViCreA Satellite 東信	ViCreA 静岡	ViCreA 福岡
ViCreA Satellite 松本	ViCreA Satellite 浜松	

* 「ViCreA 東京」は2014年11月オープンです。

全国のViCreAをWeb上にてバーチャルで体感いただけます。

<http://ricohjapan-vicrea-panorawalk.cloudapp.net/vicrea/top.html>

ホームページからもViCreA見学をお申込みいただけます！ご来場をお待ちしております。

<http://www.ricoh.co.jp/sales/liveoffice/>

はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

CISのご紹介

Customer Innovation Support service

リコーグループ各社で培ってきた社内実践ノウハウを、お客様の課題解決や企業体質の強化にご活用ください。私たちはお客様の企業価値向上に貢献でき、安心・満足・感動していただく「価値共創パートナー」となることを目指しています。また、リコーグループで実践して成果が出ている改善・改革のノウハウを、経営課題の解決に寄与できるソリューションメニューとしてご用意しています。



【社内実践事例一覧】

番号	社内外に共有できる課題	リコー実践事例
P08	リコーへの取り組み	社会からの信頼と社会貢献活動を推進する取り組み
P09	環境負荷削減の取り組み	社会的課題の解決と企業価値向上を目指す「環境貢献」の取り組み
P10	社会貢献活動の取り組み	自社の技術や人材を活かした社会貢献活動の推進
P11	内部統制の取り組み	「内部統制の徹底」および「品質」の両立によるリスク低減と効率化
P12	グローバルな取り組み	「多国籍企業」に求められるグローバルな取り組みの推進
P13	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P14	コンプライアンス意識向上と実践（CSR-Web）	コンプライアンス意識の向上と実践の推進
P15	リコー独自の取り組み	2025年長期経営計画の達成に向けた取り組み
P16	経営課題の解決	経営課題の解決と企業価値向上の推進
P17	多国籍企業としての取り組み	多国籍企業としての取り組みの推進
P18	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P19	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P20	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P21	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P22	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P23	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P24	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P25	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P26	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P27	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P28	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P29	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P30	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P31	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P32	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P33	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P34	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P35	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P36	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P37	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P38	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P39	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P40	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P41	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P42	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P43	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P44	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P45	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P46	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P47	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P48	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P49	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進
P50	グローバルな取り組み	グローバル市場での競争力向上と「グローバル」な取り組みの推進



私たちが実践したこと、挑戦したこと、ご紹介します。
お客様が抱える経営課題は、私たちリコーの経営課題でもありました。

16分野からご紹介いたします

カテゴリ	概要	カテゴリ	概要
CSR	持続可能な社会と企業の発展を目指す。CSRの基盤となる3つの考え方を実践 ・社員の意識を高め、CSRをどう根付かせるか ・具体的にどんな活動を実践しているか ・自社の技術や人材を活かした社会貢献活動	総務・人事	経営戦略実現のキーとなる人材強化で、やる気のサイクルを高め「元気のいい会社」へ ・人材タイプ別キャリアデザイン ・ワークライフバランス ・e-ラーニングシステム
環境	環境負荷削減と生物多様性保全の両輪で、地球環境問題への取り組みを強化 ・環境保全と利益創出の同軸化 ・CO2見える化や具体的な環境負荷低減活動	販売・サービス	お客様起点の「安心」「満足」「感動」の実現を目指したお客様接点力強化 ・価値提供プロセスの可視化とインフラ強化 ・導入後の「安心利用」を提供するサポート体制
ITシステム	業務プロセス最適化とIT活用による業務効率化、および、IT活用によるセキュアな会社づくり ・人事・総務等、スタッフ部門のIT活用システム ・国内グループ19社のISMS統一認証システム	開発・設計	
経営企画・広報	21世紀の勝利者を目指し、「顧客価値創造」と「高効率経営」の両軸徹底による競争力強化 ・経営戦略と部門施策を明確にした経営マネジメント（BSCの活用）	資材	
生産	「大量生産」と「短納期・小ロット」の商品に、2極化するニーズに対する現場の改善 ・品質・経費・納期・安全実現の5S活動 ・労働災害の「潜在的危険低減」と「快適職場環境」の形成	品質	
		物流	
		SCM構造改革	多くの事例は、「お客様が抱える経営課題」に通じていませんか。私たちが実践してきたことが、お客様のお役に立てるかもしれません。

はじめに
CSRの考え方
誠実な企業活動
環境との調和
人間尊重
社会との調和
ご紹介

私たちは、課題解決のためのさまざまな実践事例を、お客様と共有したいと考えています。

実践事例のご紹介状況

インナーセミナー・集合セミナー

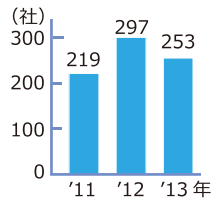
CISにおける私たちの主要な活動は、声をおかけいただいたお客様先での、お客様ニーズに応じた1社ごとの「インナーセミナー」と、当社にお越しいただいての、異業種のお客様にご参加いただく「集合セミナー」です。おかげさまで、各セミナーは好評で、多くのお客様に課題解決のヒントをご提供することができました。

2013年度人気セミナー

- ①5S・改善セミナー（工場等）
- ②労働安全衛生セミナー
- ③環境、省エネセミナー
- ④情報セキュリティセミナー
- ⑤BCP（事業継続計画）セミナー
- ⑥人財育成セミナー
- ⑦顧客満足（CS）セミナー
- ⑧ワークスタイルの変革セミナー

インナーセミナー実績

【開催社数】



スタッフ系ベンチマーキング

リコーグループはこれまで CS 経営、IT 経営、環境経営、そして CSR 経営を標榜してきました。お客様の経営課題の解決のヒントになるような、実践で培ったノウハウを Face to Face の対話形式でお客様に提供しています。

こんな要望にお応えしています

- A 社** ISO14001 を取得し、社内業務での環境対応を行っていく中、他社ではどのような方針で、どのような取り組みを行っているのか情報収集したい。
- B 社** 基幹システムのモバイル対応を検討しているが、それだけでなく営業の生産性向上のために、どのような取り組みが有用なのかを知りたい。
- C 社** グローバル人材の育成方法、方針、キャリアプラン、キャリアパス、グローバルを含めた人材ローテーションについてリコーの内容をお聞きしたい。

生産系ベンチマーキング

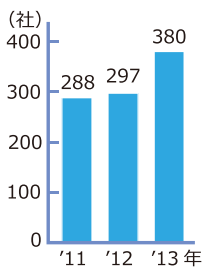
リコーグループの技術の粋を結集した、開発・設計・生産拠点の見学会を開催しています。実際の現場を見ていただくことで、5S や KAIZEN 活動、労働安全衛生活動などの実際をご体感いただいています。



工場見学のポイント・来社実績

- ①5S、KAIZEN 活動
- ②品質マネジメント活動
- ③環境マネジメント活動
- ④労働安全衛生活動
- ⑤情報管理活動
- ⑥テクニカルコールセンター
- ⑦受注センター

【工場来社数】



見学可能な工場等

- ① リコー光学(株)
- ② 迫リコー(株)
- ③ リコーインダストリー(株)東北事業所
- ④ リコーインダストリー(株)勝田事業所
- ⑤ リコーインダストリー(株)埼玉事業所
- ⑥ (株)リコーテクノロジーセンター
- ⑦ リコーテクノロジーズ(株)本社
- ⑧ リコーインダストリー(株)本社
- ⑨ (株)リコー 沼津事業所
- ⑩ (株)リコー 福井事業所
- ⑪ リコーエレメックス(株)恵那事業所
- ⑫ リコーエレメックス(株)本社・岡崎事業所
- ⑬ リコーマイクロエレクトロニクス(株)

生産関連会社



お客様の声

従業員：1,400名 金属製造 部長様から

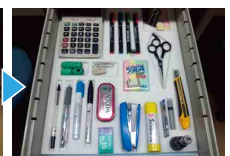
リコー福井事業所の工場見学に際して、親切丁寧なご対応およびご説明をいただき心から感謝申し上げます。御社のぶれない5S活動から収益改善へのあくなき戦いの内容を見学とご説明により身をもって体感しました。また感動いたしました。ご説明の資料には今までの何十年の努力の結晶と歩みがあり、現場のみならず間接部門までの無駄の排除、あたり前のことをあたり前に実施している活動を、これからの弊社の立て直しの活動の一部に必ず取り入れ、見せられる工場とあるべき姿への方針展開が、収益につながるものと考え、実践をしていく次第です。

従業員：500名 自動車製造 工場長様から

リコーインダストリー埼玉事業所にお邪魔し、貴重な情報や取り組みを聞かせていただき大変ありがとうございました。徹底したムダ排除の取り組みや人材育成についてなど、我々にとって勉強になったことがたくさんありました。本当に参考になりました。これから、抜本的な工場改革に踏み込む上で貴社のノウハウを参考にさせていただけると幸いです。今後ともよろしくお願いたします。

Before

After



はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

リコージャパン主要事業所一覧

本部

フィールドサポート本部	〒111-0053	東京都台東区浅草橋 5-20-8
ソリューション技術本部	〒104-6041	東京都中央区晴海 1-8-10
OR事業本部	〒103-0016	東京都中央区日本橋小網町 19-5
BP事業本部	〒104-8180	東京都中央区銀座 8-13-1
パートナー事業本部	〒108-0023	東京都港区芝浦 3-4-1
P P S事業本部	〒104-8222	東京都中央区銀座 8-13-1
MA 事業本部	〒108-0023	東京都港区芝浦 3-4-1

① 北海道事業本部 〒060-0807 札幌市北区北7条西2-8-1

札幌北事業所	〒060-0807	札幌市北区北7条西2丁目-8-1
麻生事業所	〒001-0040	札幌市北区北40条西4丁目325-10
白石事業所	〒004-0041	札幌市厚別区大谷地東2-4-30
旭川事業所	〒070-0023	旭川市東3条5丁目18-2
北見事業所	〒090-0802	北見市田端町71-8
留萌事業所	〒077-0042	留萌市開運町1-3-24
稚内事業所	〒097-0001	稚内市末広5-35-1
函館事業所	〒042-0943	函館市乃木町8-15
苫小牧事業所	〒053-0031	苫小牧市春日町1-3-3
室蘭事業所	〒050-0074	室蘭市中島町4-13-7
帯広事業所	〒080-2469	帯広市西19条南1丁目4-20
釧路事業所	〒085-0027	釧路市仲浜町1-15
滝川事業所	〒073-0031	滝川市栄町2-3-4

② 東北事業本部 〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-5-3

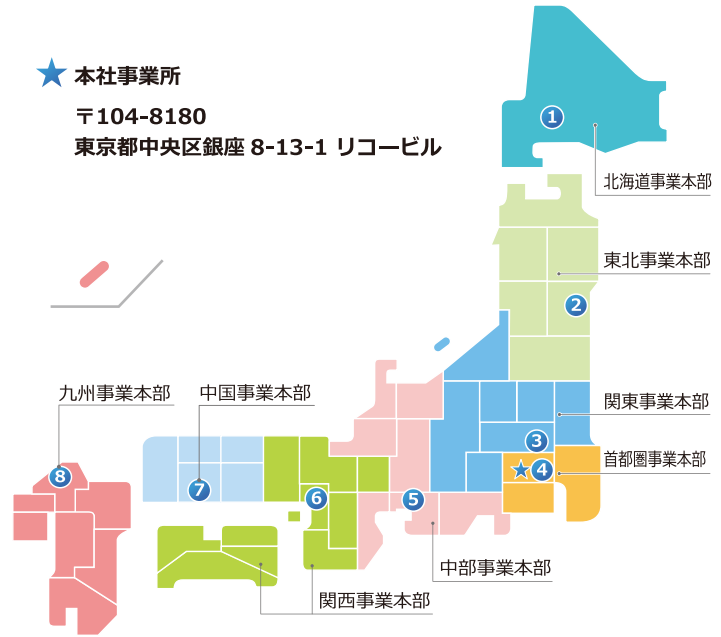
青森支社	〒030-0113	青森市第二間屋町3-5-37
八戸事業所	〒039-1165	八戸市石堂3-16-2
弘前事業所	〒036-8097	弘前市大字稲田2-1-6
岩手支社	〒020-0866	盛岡市本宮3-36-45
花北事業所	〒024-0051	北上市相去町平林21-209
奥州事業所	〒023-0003	奥州市水沢区佐倉河字川原田85-1
一関事業所	〒021-0863	一関市南町2-15
釜石事業所	〒026-0034	釜石市中妻町2-14-6
宮古事業所	〒027-0048	宮古市板屋2-1-6
宮城支社	〒980-0022	仙台市青葉区五橋1-5-3
仙台東事業所	〒984-0042	仙台市若林区大和町3-15-2
仙台北事業所	〒981-3133	仙台市泉区泉中央2-9-2
古川事業所	〒989-6223	大崎市古川字竹ノ内196-1
石巻事業所	〒986-0865	石巻市丸井戸2-4-4
仙南事業所	〒989-2431	岩沼市相原3-3-12
秋田支社	〒010-0061	秋田市卸町4-9-1
大館事業所	〒017-0864	大館市根下戸新町207-1
能代事業所	〒016-0884	能代市卸町4-2
横手事業所	〒013-0061	横手市横手町字大関越90-2
大仙事業所	〒014-0001	大仙市花籠字下殿屋敷26-2
本荘事業所	〒015-0852	由利本荘市一番堀88-1
山形支社	〒990-0023	山形市松波1-14-14
庄内事業所	〒997-1316	東田川郡三川町大字猪子字大堰端363
米沢事業所	〒992-0045	米沢市中央3-1-17
天童事業所	〒994-0026	天童市東本町2-7-2
福島支社	〒963-8861	郡山市鶴見坦2-18-5
白河事業所	〒961-8055	西白河郡西郷村字道南西36
福島事業所	〒960-8055	福島市野田町字道端70
いわき事業所	〒970-8034	いわき市平上荒川字桜町32-7
会津事業所	〒965-0812	会津若松市慶山1-6-77

③ 関東事業本部 〒331-0812 さいたま市北区宮原町2-45-1

埼玉支社	〒331-0812	さいたま市北区宮原町2-45-1
川口事業所	〒332-0012	川口市本町4-1-8
越谷事業所	〒343-0023	越谷市東越谷3-2-6
熊谷事業所	〒360-0012	熊谷市上之754-6
鴻巣事業所	〒365-0039	鴻巣市東1-113
川越事業所	〒350-0824	川越市石原町2-61-1
茨城支社	〒310-0836	水戸市元吉田町1074-1
水戸事業所	〒310-0836	水戸市元吉田町1074-1
日立事業所	〒317-0064	日立市神峰町1-9-5
つくば事業所	〒305-0821	つくば市春日2-26-3
鹿嶋事業所	〒314-0031	鹿嶋市宮中2-6-26
栃木支社	〒321-0911	宇都宮市間屋町3172-10
那須事業所	〒329-2745	那須塩原市三区町612-1
小山事業所	〒323-0062	小山市大字立木1424-1
佐野事業所	〒327-0003	佐野市大橋町3215-1
真岡事業所	〒321-4364	真岡市長田1-2-9

★ 本社事業所

〒104-8180
東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル



群馬支社	〒371-0846	前橋市元総社町527-3
渋川事業所	〒377-0027	渋川市金井字田中759-1
高崎事業所	〒370-0802	高崎市並榎町89-4
伊勢崎事業所	〒372-0022	伊勢崎市日乃出町68
太田事業所	〒373-0821	太田市下浜田町474-72
新潟支社	〒950-0885	新潟市東区下木戸1-18-30
長岡事業所	〒940-0877	長岡市稲保4-750-14
上越事業所	〒943-0803	上越市春日野1-2-8
長野支社	〒381-0023	長野市風間2034-5
上田事業所	〒386-0151	上田市芳田516-2
松本事業所	〒399-0033	松本市笹賀5652-76
諏訪事業所	〒392-0017	諏訪市城南1-2666-4
伊那事業所	〒396-0026	伊那市西町5148-3
飯田事業所	〒395-0152	飯田市育良町2-15-2
山梨支社	〒409-3845	中央市山之神流通団地東1
甲府事業所	〒400-0857	甲府市幸町23-10
富士吉田事業所	〒403-0016	富士吉田市松山5-11-3

④ 首都圏事業本部 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10

東京支社	〒103-0016	東京都中央区日本橋小網町19-5
浜離宮事業所	〒104-0045	東京都中央区築地5-6-10
銀座事業所	〒104-0061	東京都中央区銀座6-14-6
新宿事業所	〒163-1190	東京都新宿区西新宿6-22-1
上野事業所	〒111-0036	東京都台東区松が谷1-3-5
大井事業所	〒140-0014	東京都品川区大井1-20-6
西東京支社	〒190-0012	立川市曙町2-22-20
八王子事業所	〒192-0046	八王子市明神町3-20-6
西多摩事業所	〒205-0001	羽村市小作台4-3-1
府中事業所	〒183-0044	府中市日鋼町1-1
武蔵野事業所	〒180-0006	武蔵野市中町1-19-18
神奈川支社	〒220-0012	横浜市西区みなとみらい4-6-2
港北事業所	〒224-0015	横浜市都筑区牛久保西1-24-35
川崎事業所	〒212-0013	川崎市幸区堀川町66-2
厚木事業所	〒243-0018	厚木市中町3-11-18
大和事業所	〒242-0018	大和市深見西3-1-3
相模原事業所	〒252-0234	相模原市中央区共和4-22-1
横須賀事業所	〒239-0807	横須賀市根岸町5-20-16
平塚事業所	〒254-0034	平塚市宝町9-14
千葉支社	〒261-7118	千葉市美浜区中瀬2-6-1
千葉事業所	〒260-8555	千葉市中央区新町24-9
館山事業所	〒294-0054	館山市湊38-2
茂原事業所	〒297-0026	茂原市茂原643
船橋事業所	〒273-0033	船橋市本郷町538
柏事業所	〒277-0831	柏市根戸206
市原事業所	〒290-0055	市原市五井東1-19-1
成田事業所	〒286-0202	富里市日吉倉12-1
東総事業所	〒289-2148	匝瑳市飯倉台3-21-6
木更津事業所	〒292-0057	木更津市東中央2-4-14

はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介

全国を幅広くカバーする、リコージャパンの営業拠点をご紹介します。



5 中部事業本部 〒451-6010 名古屋市西区牛島町6-1

静岡支社	〒422-8078	静岡市駿河区さつき町 5-37
沼津事業所	〒410-0004	沼津市本田町 2-3
藤枝事業所	〒426-0061	藤枝市田沼 2-18-7
浜松事業所	〒432-8041	浜松市中区菅原町 11-9
掛川事業所	〒436-0027	掛川市久保 1-4-11
愛知支社	〒451-6010	名古屋市西区牛島町 6-1
名北事業所	〒462-0038	名古屋市北区稚児宮通 1-30
名南事業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 3-581
名西事業所	〒454-0868	名古屋市中川区草平町 1-72
名古屋今池事業所	〒464-0075	名古屋市千種区内山 2-14-29
尾張事業所	〒482-0005	岩倉市下本町字城址 25-1
知多事業所	〒475-0925	半田市宮本町 3-217-21
三河事業所	〒446-0059	安城市三河安城本町 1-23-1
豊田事業所	〒471-0034	豊田市小坂本町 3-3-1
岡崎事業所	〒444-0007	岡崎市大平町八ツ幡 18-1
豊橋事業所	〒441-8028	豊橋市立花町 29-5
三重支社	〒510-0064	四日市市新正 1-12-15
津事業所	〒514-1113	津市久居野村町 420-2
桑名事業所	〒511-0069	桑名市新矢田 2-10
伊賀事業所	〒518-0002	伊賀市千歳 282-1
岐阜支社	〒500-8247	岐阜市長森細畑 427
大垣事業所	〒503-0816	大垣市小泉町二番割 179-1
多治見事業所	〒507-0039	多治見市十九田町 2-4-1
恵那事業所	〒509-7201	恵那市大井町 2087-358
高山事業所	〒506-0035	高山市新宮町 3770-5
富山支社	〒939-8072	富山市堀川町 313
高岡事業所	〒933-0874	高岡市京田 499
石川支社	〒920-0031	金沢市広岡 1-13-22
能登事業所	〒926-0031	七尾市古府町 3 番 102 号
福井支社	〒910-0854	福井市御幸 3-7-15
敦賀事業所	〒914-0811	敦賀市中央町 1-3-3
小浜事業所	〒917-0241	小浜市遠敷 1-1303-2

6 関西事業本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町4-11-6

滋賀支社	〒520-3015	栗東市安養寺 7-2-22
水口事業所	〒528-0049	甲賀市水口町貫生川 1-52-2
近江八幡事業所	〒523-0891	近江八幡市鷹飼町 562
彦根事業所	〒522-0082	彦根市安清町 5-15
京都支社	〒600-8418	京都市下京区烏丸通松原下ル五条丸町 401
京都南事業所	〒612-8425	京都市伏見区竹田田中殿町 77
福知山事業所	〒620-0940	福知山市駅南町 2-78
大阪支社	〒540-0029	大阪市中央区本町橋 1-5
本町橋事業所	〒540-0029	大阪市中央区本町橋 1-5
谷町事業所	〒540-0012	大阪市中央区谷町 4-11-6
平野事業所	〒547-0034	大阪市平野区背戸口 1-21-28
茨木事業所	〒567-0824	茨木市中津町 19-33
江坂事業所	〒564-0053	吹田市江の木町 34-5
枚方事業所	〒573-0023	枚方市東田宮 1-14-16
東大阪事業所	〒578-0911	東大阪市中新開 2-11-21
南大阪事業所	〒593-8325	堺市西区鳳南町 3-215
兵庫支社	〒651-0084	神戸市中央区磯辺通 1-1-39
明石事業所	〒673-0898	明石市樽屋町 8-32
西宮事業所	〒662-0927	西宮市久保町 7-28
三田事業所	〒669-1512	三田市高次 1-12-10
姫路事業所	〒670-0964	姫路市豊沢町 101
加西事業所	〒675-2311	加西市北条町横尾 1042
龍野事業所	〒679-4129	たつの市龍野町堂本 54-1
豊岡事業所	〒668-0027	豊岡市若松町 4-14
奈良支社	〒630-8001	奈良市法華寺町 138-1
橿原事業所	〒634-0063	橿原市久米町 599-1
和歌山支社	〒640-8341	和歌山市黒田 39-2
橋本事業所	〒649-7205	橋本市高野口町名倉 1070
田辺事業所	〒646-0026	田辺市宝来町 10-11
紀南事業所	〒647-0016	新宮市谷王子町 456-1
徳島支社	〒770-0871	徳島市金沢 2-3-60
阿波事業所	〒771-1624	阿波市市場町山野上大西 210-1
香川支社	〒761-8054	高松市東八ヶ町 9-7
瀬戸大橋事業所	〒769-0227	綾歌郡宇多津町岩屋 3537-1
愛媛支社	〒790-0063	松山市辻町 15-33
松山事業所	〒790-0056	松山市土居町 182-1

八幡浜事業所	〒796-8020	八幡浜市郷 3 番耕地 14-1
新居浜事業所	〒792-0811	愛媛県新居浜市庄内町 1-9-4
今治事業所	〒794-0033	愛媛県今治市東門町 1-7-9
高知支社	〒780-0088	高知県高知市北久保 12-3
四万十事業所	〒787-0051	高知県四万十市具同田黒 1-12-38

7 中国事業本部 〒730-0013 広島市中区八丁堀 3-33

広島支社	〒730-0013	広島市中区八丁堀 3-33
呉事業所	〒737-0046	呉市中通 2 丁目 1-26
福山事業所	〒721-0955	福山市新涯町 5-3-27
岡山支社	〒700-0973	岡山市北区下中野 236-6
津山事業所	〒708-0824	津山市沼 7-7
倉敷事業所	〒712-8044	倉敷市東塚 1-1-35
山口支社	〒754-0028	山口市小郡給領町 1-20
周南事業所	〒744-0027	下松市南花岡 1-3-12
下関事業所	〒750-0016	下関市細江町 2-2-1
萩事業所	〒758-0011	萩市大字椿東 2928-1
鳥取支社	〒680-0942	鳥取市湖山町東 5-374-7
倉吉事業所	〒682-0017	倉吉市清谷町 2-53
米子事業所	〒683-0006	米子市車尾 2-5-22
島根支社	〒690-0038	松江市平成町 182-27
出雲事業所	〒693-0021	出雲市塩治町 1149-4
浜田事業所	〒697-0006	浜田市下府町 471-2
益田事業所	〒698-0007	益田市昭和町 23-20

8 九州事業本部 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 2-1-82

福岡支社	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通 2-1-82
福岡西事業所	〒819-0025	福岡市西区石丸 2-38-29
福岡南事業所	〒816-0955	大野城市上大利 5-1-6
福岡北事業所	〒811-3209	福津市日時野 1-1-1
小倉事業所	〒802-0003	北九州市小倉北区米町 2-2-1
八幡事業所	〒806-0064	北九州市八幡西区割子川 2-13-20
苅田事業所	〒800-0353	京都郡苅田町大字尾倉 3431-12
筑豊事業所	〒820-0067	飯塚市大字川津 267-2
有明事業所	〒837-0904	大牟田市大字吉野 2137
久留米オフィス	〒830-0003	久留米市東柳原町 1107-1
佐賀支社	〒849-0912	佐賀市兵庫町瓦町四本松 1082
鳥栖事業所	〒841-0072	鳥栖市村田町字五本松 496-1
唐津事業所	〒847-0831	唐津市千々賀八反田 11-4
武雄事業所	〒843-0023	武雄市武雄町大字昭和 800
伊万里事業所	〒848-0027	伊万里市立花町 2294-8
長崎支社	〒852-8131	長崎市文教町 11-5
佐世保事業所	〒857-1162	佐世保市卸本町 1-164
長崎県央事業所	〒859-0401	諫早市多良見町化屋 1873
五島事業所	〒853-0033	五島市木場町 244-9
対馬事業所	〒817-0001	対馬市厳原町小浦 205-1
壱岐出張所	〒811-5132	壱岐市郷ノ浦町東触 689-2
熊本支社	〒861-8501	熊本市東区下南部 3-10-32
熊本西事業所	〒860-0834	熊本市南区江越 2-4-7
八代事業所	〒866-0815	八代市長田町 3293-1
山鹿事業所	〒861-0535	山鹿市南島 1239
大分支社	〒870-0921	大分市萩原 4-8-7
別府事業所	〒874-0919	別府市石垣東 10-1-10
大分県南事業所	〒875-0233	臼杵市野津町大字宮原 3785
大分北事業所	〒879-0471	宇佐市大字四日市荒巻 61-8
杵築出張所	〒873-0002	杵築市南杵築平良石 1731-9
宮崎支社	〒880-0036	宮崎市花ヶ島町大原 2361-1
延岡事業所	〒882-0874	延岡市伊達町 3-68-1
日向事業所	〒883-0014	日向市原町 2-47
都城事業所	〒885-0021	都城市平江町 45-2-2
鹿児島支社	〒892-0833	鹿児島市松原町 7-6
鹿児島南事業所	〒891-0115	鹿児島市東開町 3-155
川内事業所	〒895-0005	薩摩川内市永利町字金下 665-4
鹿屋事業所	〒893-0004	鹿屋市朝日町 10-6
霧島事業所	〒899-5121	霧島市隼人町神宮 5-3-24
出水事業所	〒899-0212	出水市上知識町 77
大島事業所	〒894-0036	奄美市名瀬長浜町 28-2
沖縄支社	〒902-0064	那覇市寄宮 1-3-37
沖縄中部事業所	〒904-2151	沖縄市字松本 855
沖縄北部事業所	〒905-0011	名護市字宮里 453-6
八重山事業所	〒907-0004	石垣市字登野城 29
久米島出張所	〒901-3124	久米島町字仲泊 616

はじめに

CSRの考え方

誠実な企業活動

環境との調和

人間尊重

社会との調和

ご紹介



会社概要

- 創 立 : 1959年5月2日
- 資 本 金 : 25億円
- 代 表 者 : 代表取締役 社長執行役員 CEO 佐藤 邦彦
- 売 上 高 : 627,264百万円 (2014年3月期)
- 従業員数 : 19,984名 (2014年7月1日現在)
- 本 社 : 東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル
- 事業内容 : ドキュメントソリューションをベースとした、リコーのデジタル複写機、プリンター、ネットワーク関連商品、消耗品の販売、及び機器保守、アフターフォロー等をトータルで提案と提供

取り扱い商品

- 主 要 製 品 : リコー製デジタル複合機/レーザープリンター/ジェルジェットプリンター/スキャナー/デジタルカメラ/ファクシミリ/デジタル印刷機
- ソフトウェア・システム機器 : 文書管理ソリューション/ Lotus Notes* ソリューション/ナレッジソリューション/業種業務ソリューション/検索ソリューション/セキュリティソリューション/ストレージソリューション
*Lotus NotesはIBM Corporationの登録商標です。
- インターネット : 企業向け 1to1 ポータルサイト「NetRICOH」
関連製品/サービス
- S&S* 関 連 : ITKeeper
- サ プ ラ イ : トナー/PPC用紙/サーマルペーパー
*S&S とは、サポート&サービスの略です。

リコージャパン株式会社 CSR 報告書 2014

この報告書の内容に関するご意見、お問い合わせは、下記で承っています。

リコージャパン株式会社 経営企画本部 CSR推進センター CSR推進部
〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-20-8 CSタワー TEL.03-5835-7081
E-mail : rjg_csr@ricoh-japan.co.jp